

630

13

630-13



1200501541002

口  
複  
写

24. 10. 30



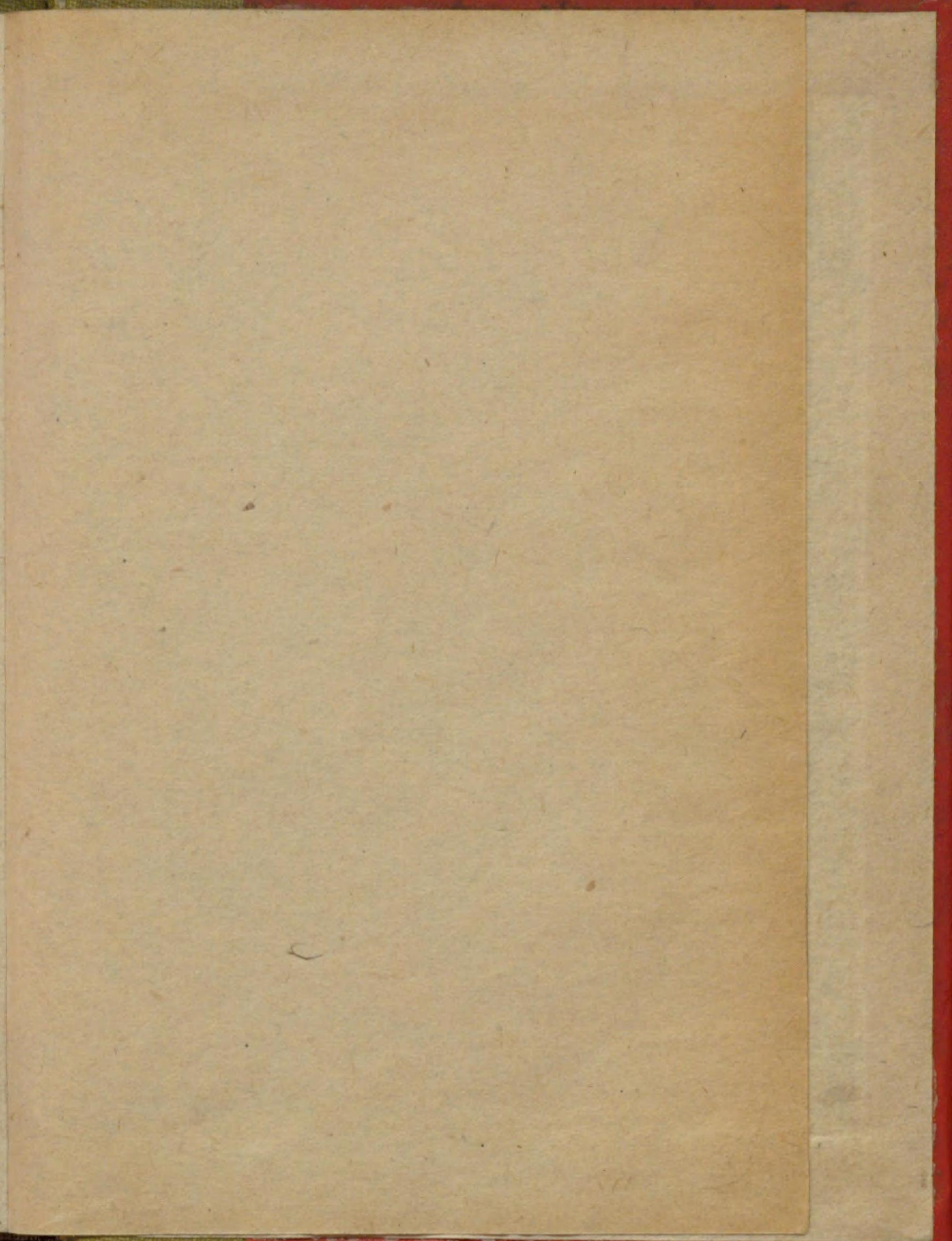
少年

# 昆虫圖譜

こほろぎ・きりぎりす・類

加藤正世着

昭和八  
SHIJO SHOBO



630-13

は し が き

は し が き

昆蟲は少年の最も良き遊び相手である。長いもち  
竿を持つて蜻蛉を追ひかけたり、カブトムシに玩具  
の車を曳かせたりした懐しい想ひ出は、きつと多く  
の人々が持つて居ることであらう。

一歩進んで少年諸君が昆蟲を観察したり、或は採  
集して立派な標本を作り、勉強室に飾つたならば立  
處に小博物館が出来上り、更に深い興味と面白さと  
を感じて来るであらう。

究めれば究める程興味の盡きないのは昆蟲の世界

である。蝶々は生れ乍らに美しい翅を持ち、鈴蟲はいゝ聲で鳴く。夏の終りに鳴きだすツクツクボウシの聲は實に複雑な面白いものであるが、それは誰に教はつたものでもない、毎年地球上に出て来るツクツクボウシの全部が生れ乍らに持つて居る歌なのである。

美しい蝶々の前身は氣味の悪い毛蟲や青蟲であつたり、蜻蛉の子供が水の中に棲んで居たり、その生ひ立ちにも色々興味の深いものがある。

なせ蝶々は翅が綺麗なのであらうか、なせツクツクボウシは必ずあんな歌を歌ふのであらうかと深く

調べ出すと、遂には解らなくなつてしまふ。解らない處に面白味があるのかも知れないが、一寸でも蟲の生活を知ることが出来ればその時の愉快さは格別である。昆蟲を採集したり、観察したりする爲に最も肝腎なのは名前を知ることである。その蟲の名前が解ると解らないのでは、面白さにも大きな相違がある。

私の少年時代には昆蟲の本も僅かしか無く、而も子供に解る様なものは無かつたが、それでも淺草の昆蟲館に澤山標本が陳列してあつたので、それを見

て名前を覚えることが出来た。今は昆虫館があつても標本は無く、書物は澤山に出来て居ても少年向のものは極く僅かで、名前を調べる爲の不便さは昔と變り無い位である。

私は昆虫趣味の普及に全精神を打ち込んで努力して居るのであるが、今回少年諸君に基礎智識を興へる参考書として本書を著したのである。これに依つて諸君が一層の智識と興味とを深めることが出来たならば、それは著者の最も幸とする處である。

二千五百九十三年紀元節

著者識す

凡 例

一 本書は小學校及び中等學校程度の参考書として著はしたもので、理科書に收められた教材は總て取り入れてある。

二 昆虫の名稱は總て正確な學術的のものを用ひた。學名は初歩の諸君には不必要であるかも知れないが、他日必ず役に立つものと信ずる。

三 昆虫の種類は最も手近に産するものを標準として撰擇した。殊に何れも代表的のものであるから、

凡 例

是等を知つて置けば本書に無い他の色々な昆蟲を採つた時にも、大體何蟲の種類であると區別することが出来るであらう。

四 少年昆蟲圖譜は十卷で完結するものである。寫眞の標本は總て著者の所藏するもの、撮影、製版、印刷等は光村原色版印刷所の手になるものである。

少年昆蟲圖譜 第一卷

目次

はしがき	1
凡 例	6
原色寫眞圖版 第一圖版—第四圖版	
單色寫眞圖版 第五圖版—第二〇圖版	
第一編 ばつた、きりぎりすの類	1
體の構造	1
肢	5

# 第一圖版

## 目次

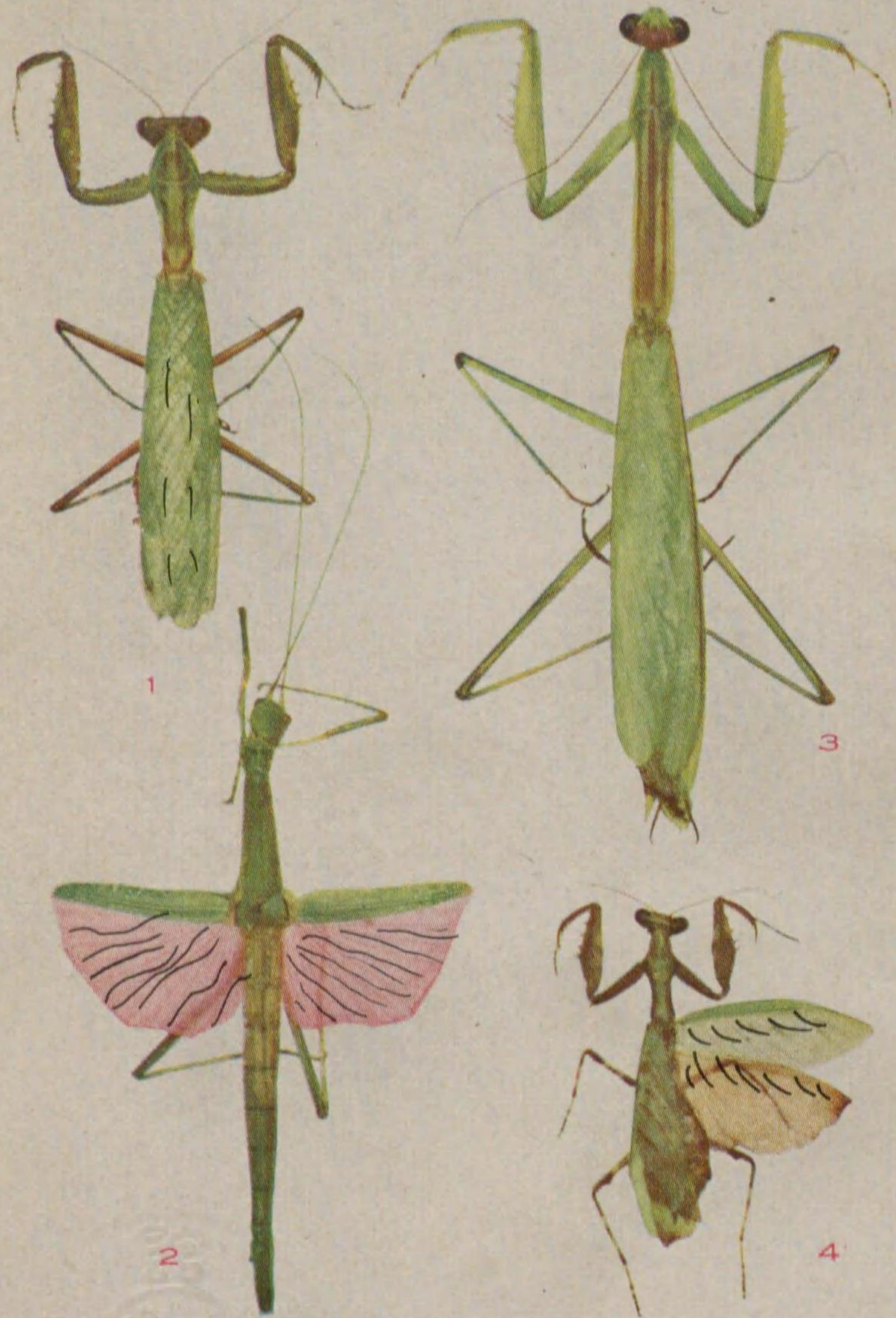
飛	發	消	習	鳴	解	習	習	解	飛
音	化	器	性	く	説	性	性	説	引
器	の	の		蟲	は	は	は	さ	
	構	造			さ	さ	さ	み	
	造				み	み	み	む	
					む	む	む	し	
					し	し	し	の	
					の	の	の	類	
					類				

(昆蟲趣味の會入會のおすゝめ)

六 七 二 三 五 四 一〇 一〇 一一 一二



第一圖版



(自然大)

圖解

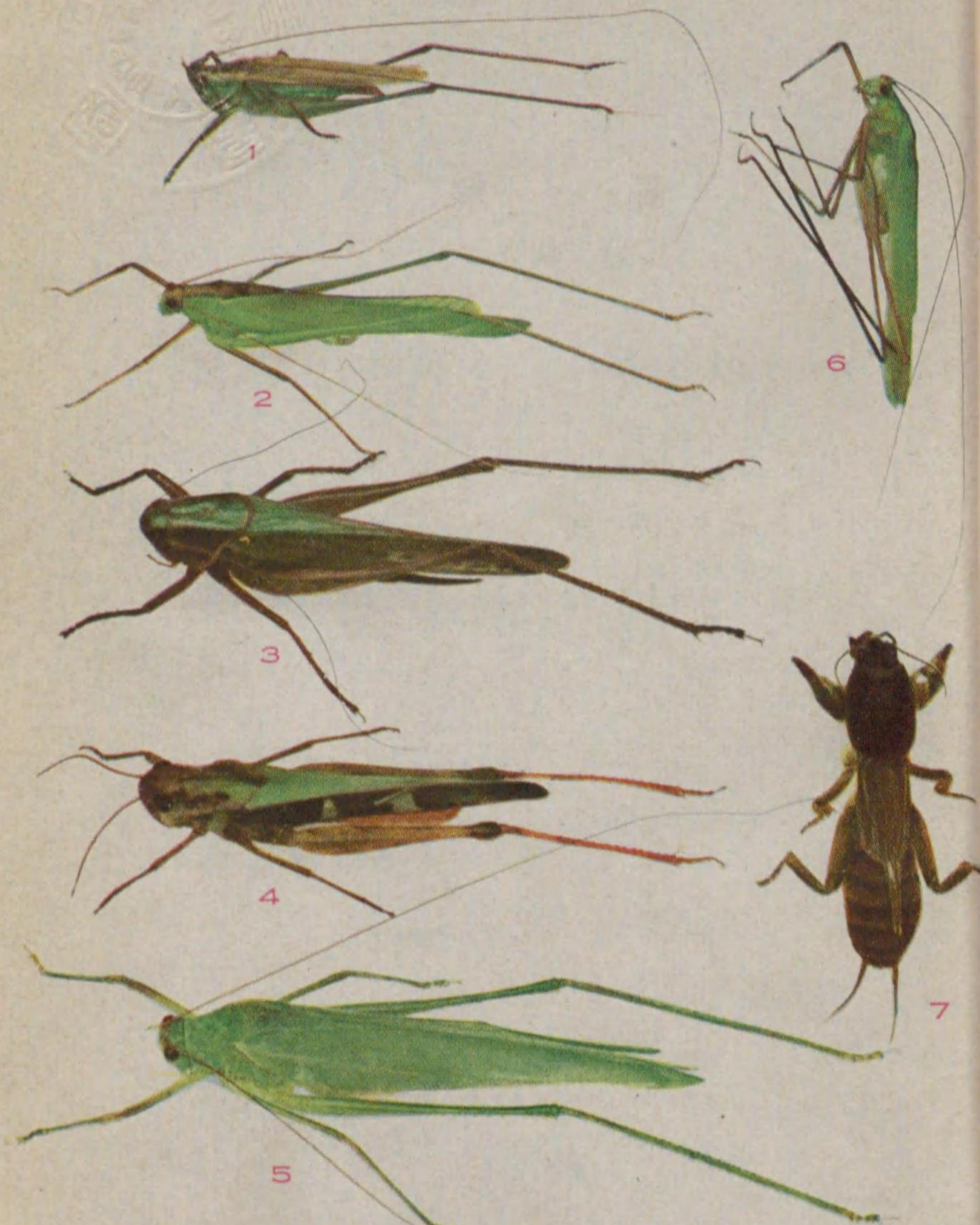
〔第一圖版〕

	(頁)
1 ハラビロカマキリ .....	99
2 トビナナフシ .....	103
3 カマキリ .....	93
4 ヒメカマキリ .....	100

版圖第二



第二圖版



(自然大)

圖 解

〔第二圖版〕

	(頁)
1 ヲナガササキリ .....	30
2 セスチツユムシ .....	33
3 イブキギス (翅の長いもの) .....	42
4 クルマバツタ .....	79
5 クダマキモドキ .....	44
6 ナカノツユムシ .....	35
7 ケ ラ .....	69

版圖第三



第三圖版



(自然大)

圖 解

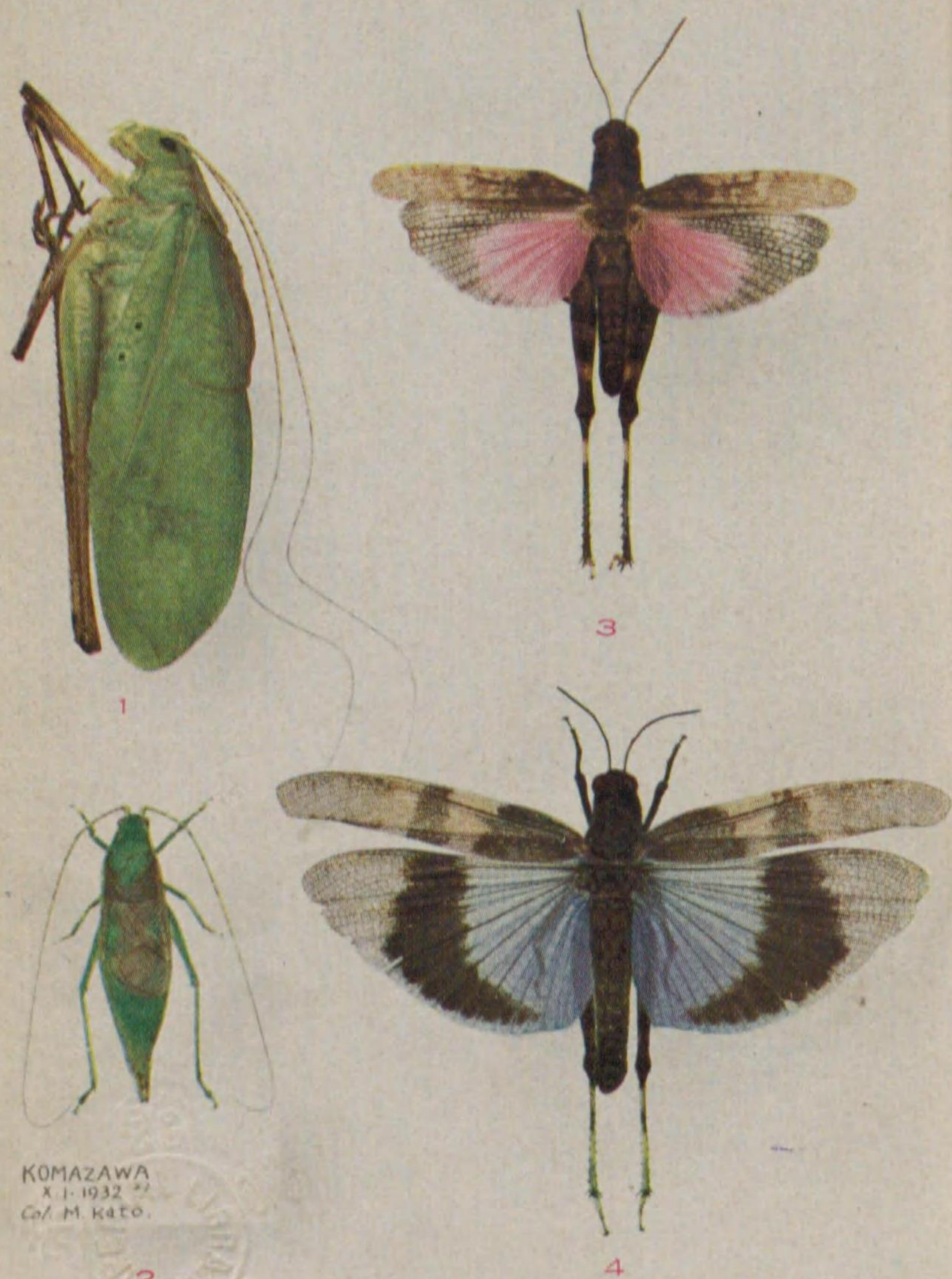
〔第三圖版〕

	(頁)
1 ホソクビツユムシ.....	36
2 カヤキリ.....	26
3 キリギリス.....	40
4 トノサマバツタ.....	78

版 圖 第 四



第四圖版



KOMAZAWA  
X. I. 1932  
Co. M. KATO.

(自然大)

圖 解

〔第四圖版〕

	(頁)
1 クツワムシ.....	38
2 アヲマツムシ.....	63
3 アカハネバツタ.....	89
4 カハラバツタ.....	85

第五圖版





第五圖版

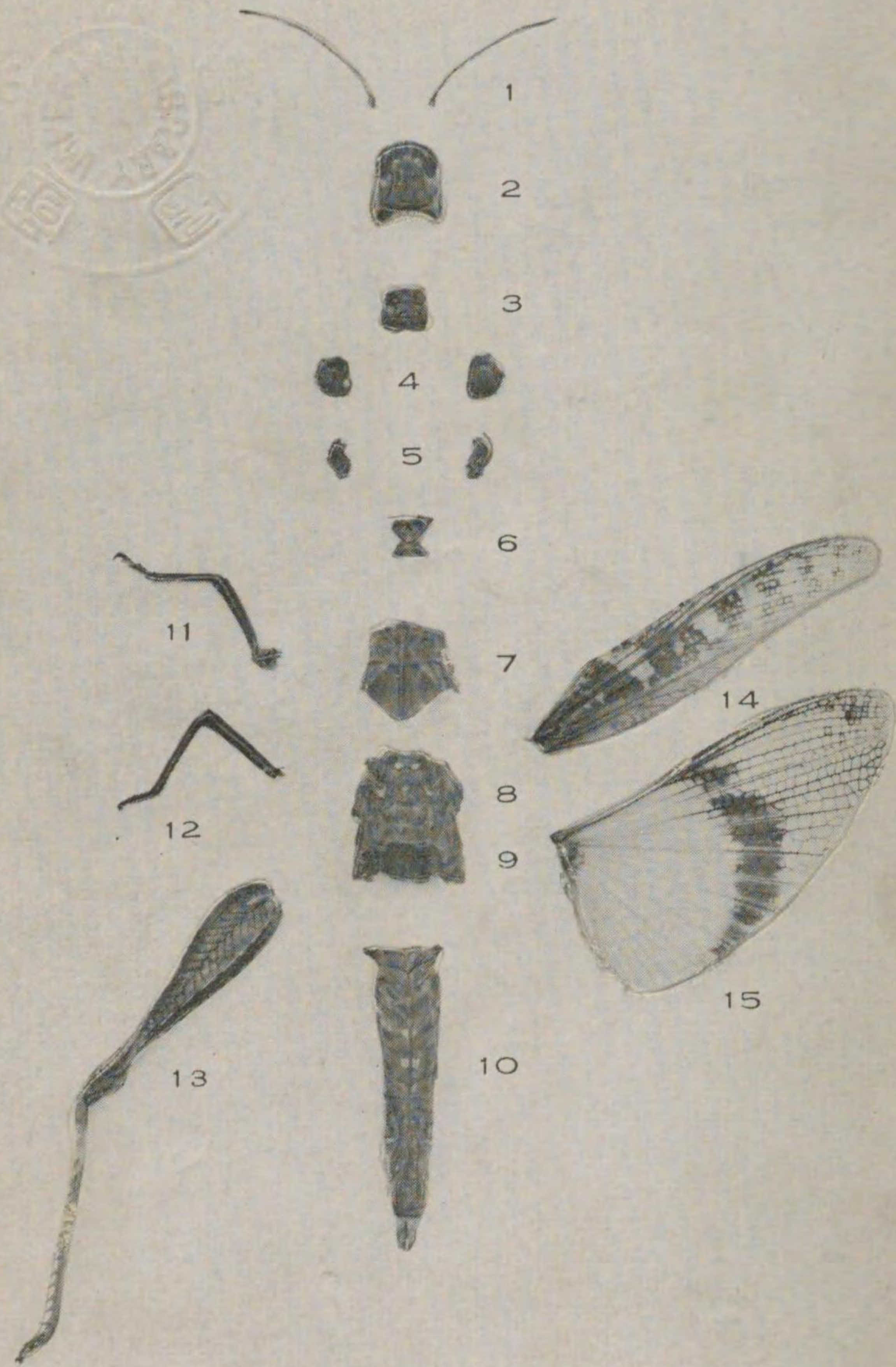


圖 解

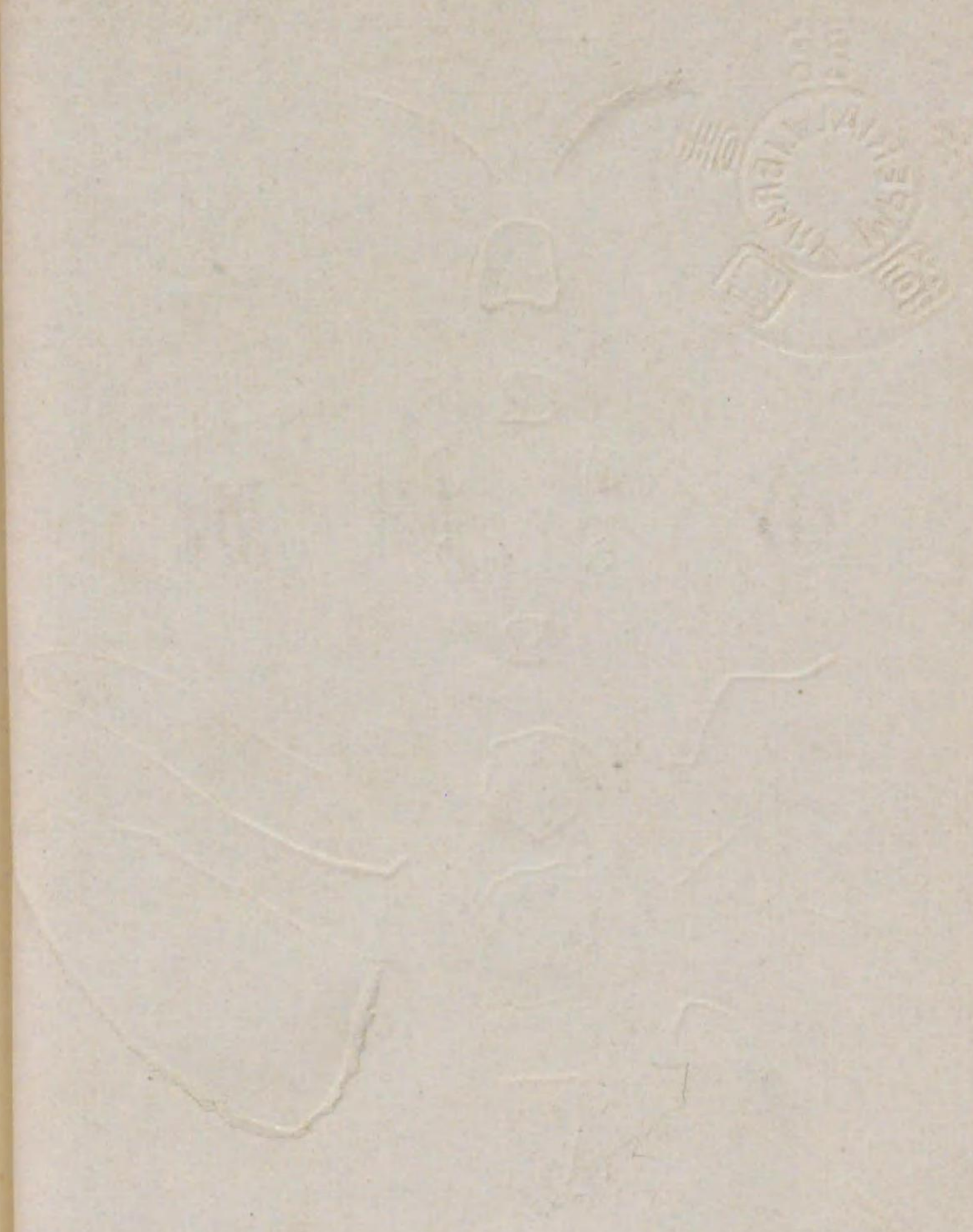
〔第五圖版〕

クルマバツタモドキの解體圖

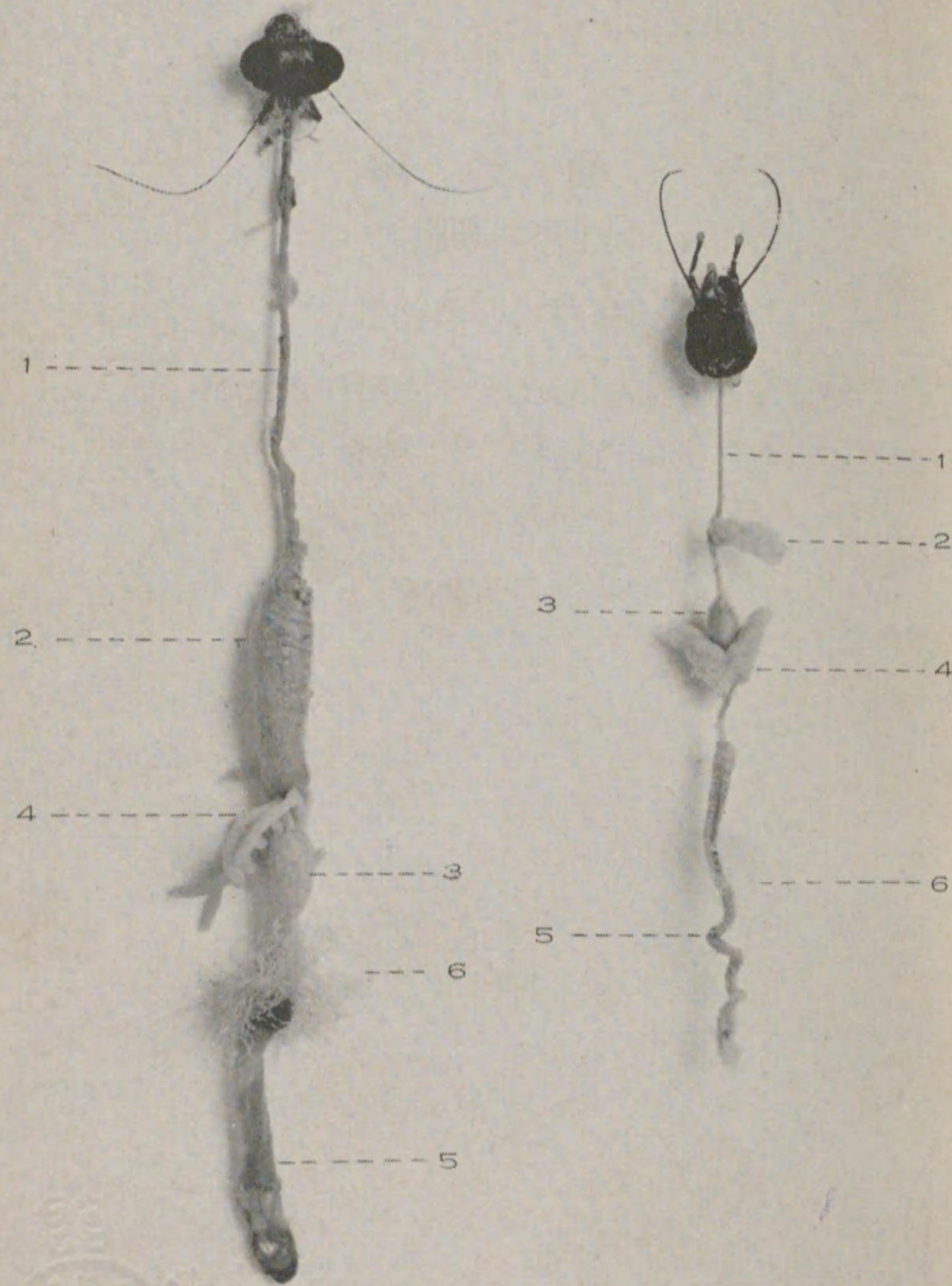
- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 1 觸角  | 2 頭部  | 3 上唇  | 4 大腮  |
| 5 小腮  | 6 下唇  | 7 前胸  | 8 中胸  |
| 9 後胸  | 10 腹部 | 11 前肢 | 12 中肢 |
| 13 後肢 | 14 前翅 | 15 後翅 |       |

(第1頁参照)

第六圖版



第六圖版



消化器の構造  
 (左) カマキリ (右) ケラ  
 (少しく拡大)

圖 解

〔第六圖版〕

直翅目の消化器

左はカマキリ、右はケラの消化器である。

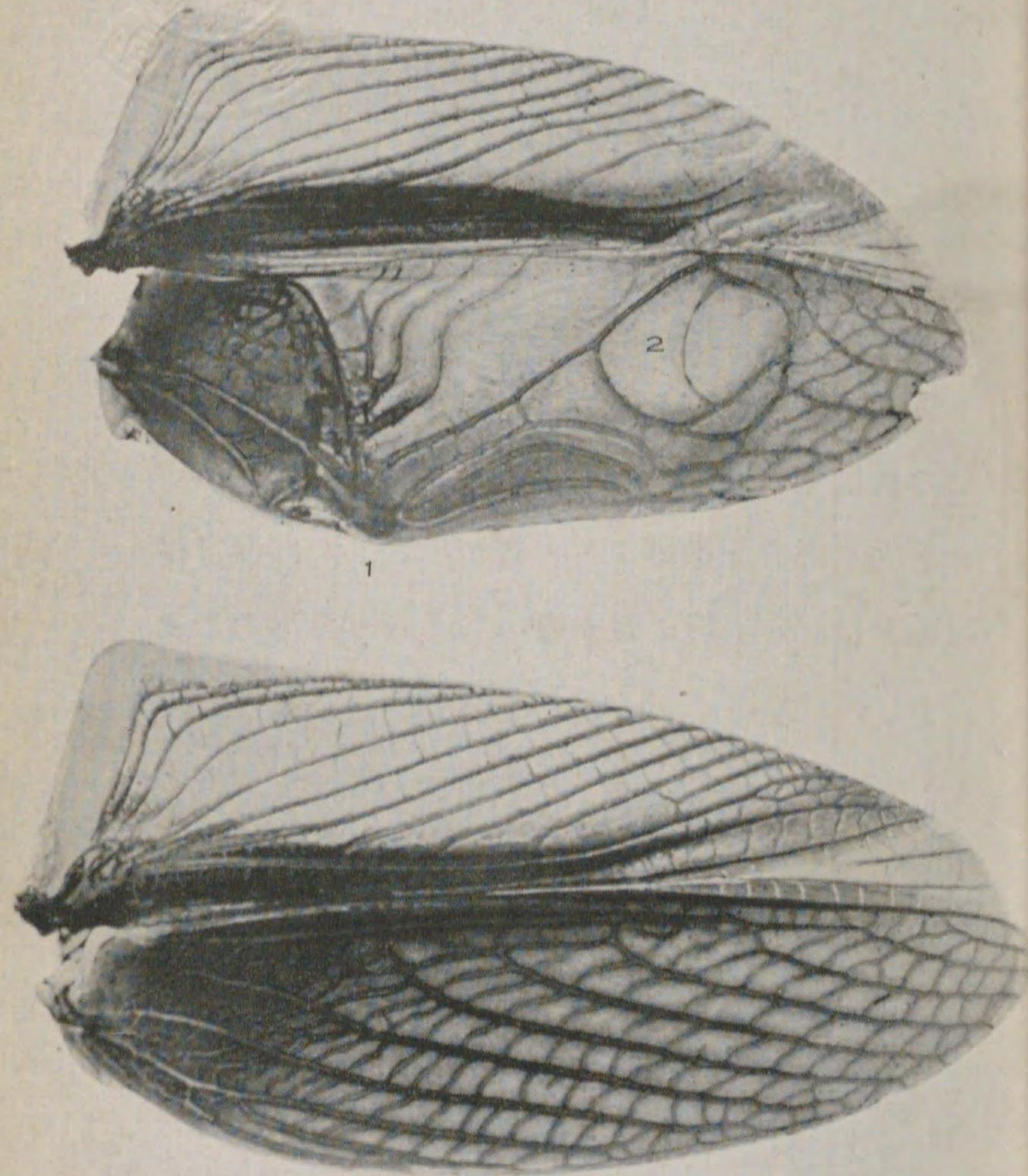
- 1 食道 2 嚙嚢 3 砂嚢 4 肝盲管  
 5 小腸 6 マルピギー氏管

(第11頁参照)

第七圖版



第七圖版



エンマコホロギの右前翅  
上 雄 下 雌  
(フोटogram寫眞)

圖 解

〔第七圖版〕

エンマコホロギの前翅を示したもので、雄（上）と雌（下）とは此の様に違つて居る。上圖の1の處から上の方に出て居る脈の裏には鑪の様なギザギザがついて居て、それに左翅の1と同じ部分を摩擦すると音が出る。2は發音鏡と云ひ此の附近に音が響いて大きくなるのである。

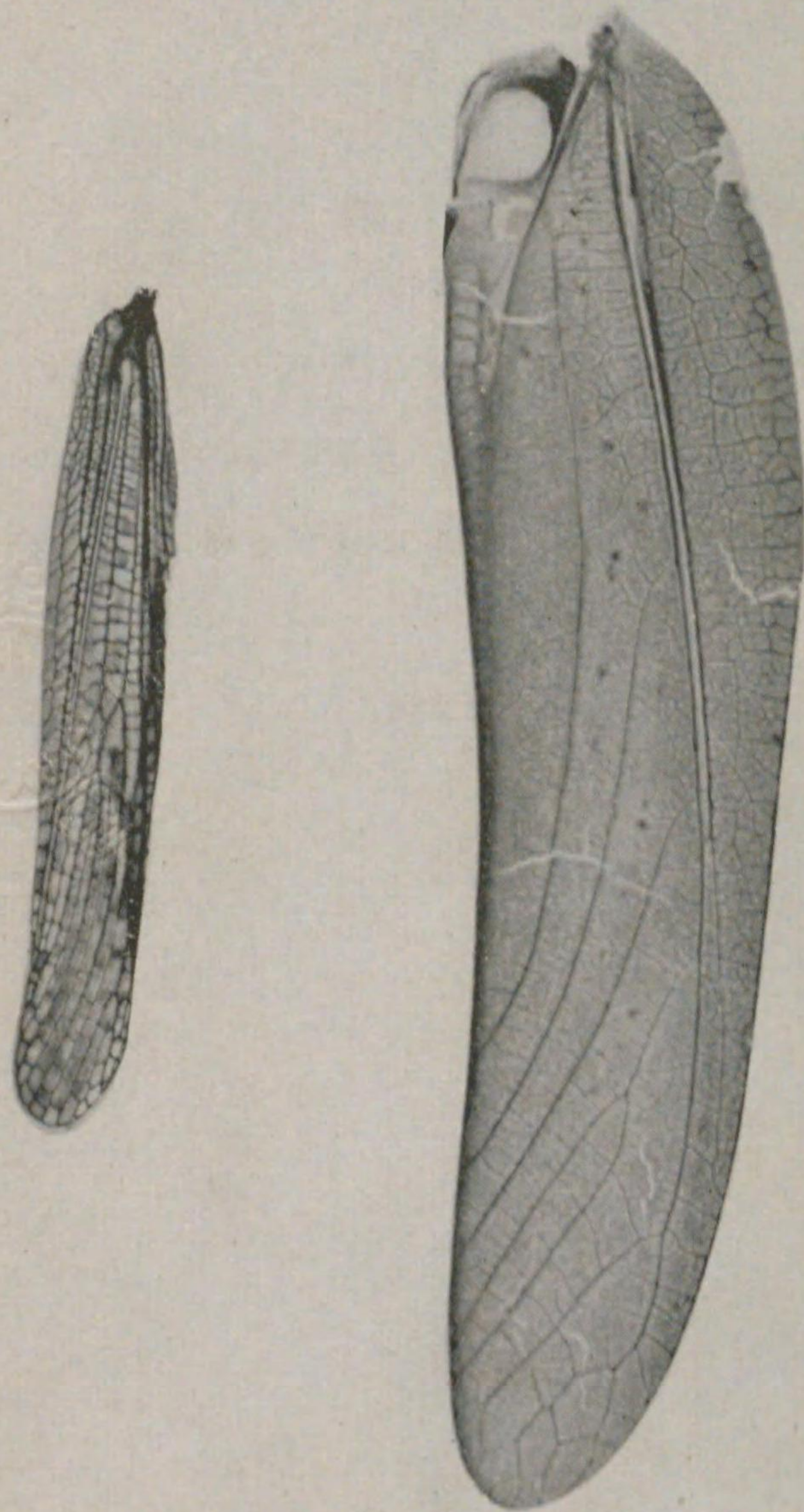
(第9頁參照)

第八圖版



第八圖版

第八圖版



ヒナバツタ(左)とセスヂツユムシ(右)の右前翅(拡大)  
両方共に雄

圖 解

〔第八圖版〕

右側はセスヂツユムシの右前翅で、上の方の  
圓い部分は發音鏡である。左側のものはヒナバ  
ツタの前翅で、出張つた脈に後肢を摩擦して音  
を出すのである。

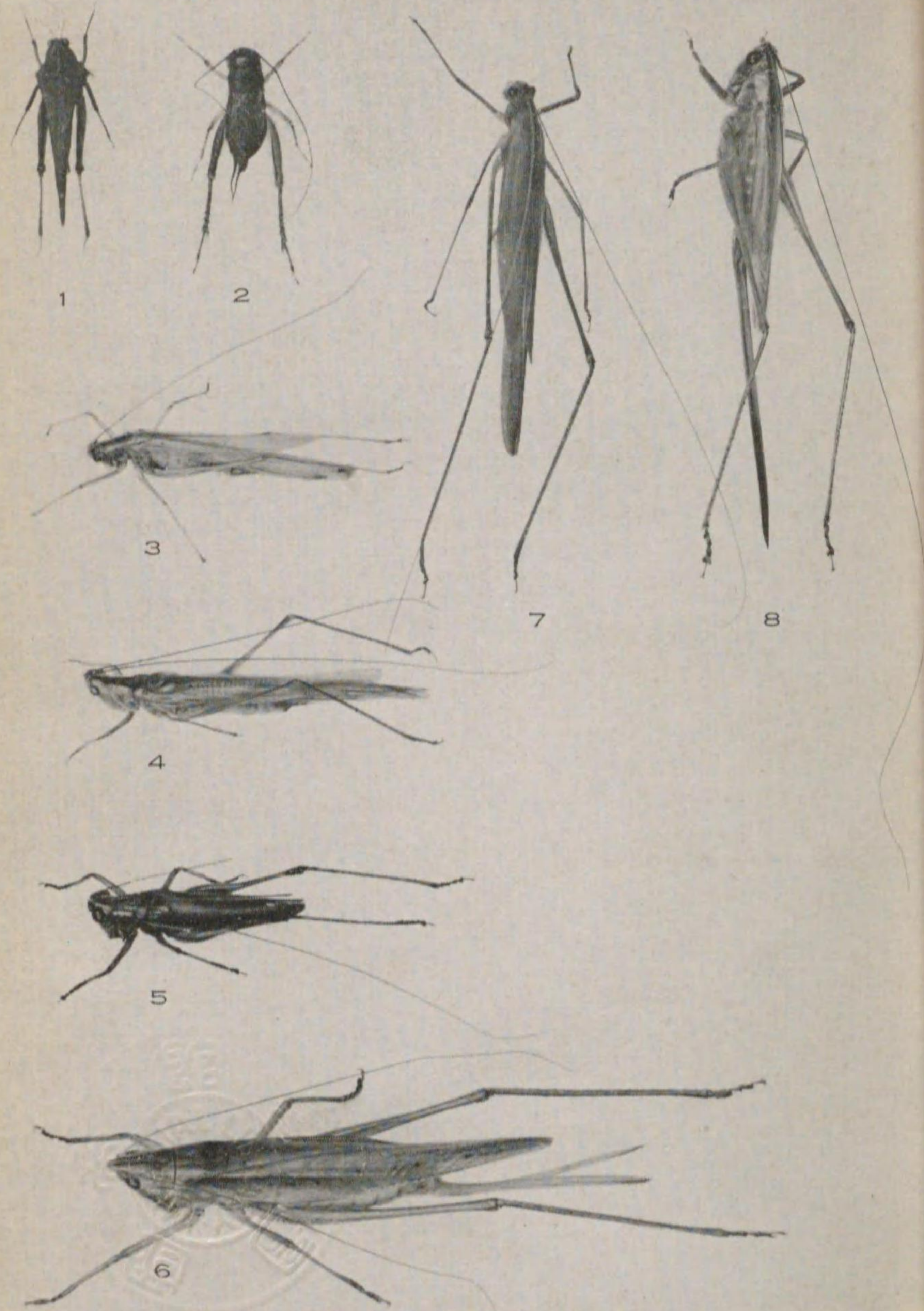
(第7頁参照)

第九圖版





第九圖版



(自然大)

圖 解

〔第九圖版〕

	(頁
1 トゲヒシバツタ.....	92
2 クマコホロギ.....	54
3 ミドリササキリ.....	32
4 ハネナガササキリ.....	29
5 ササキリ.....	31
6 クサキリ.....	25
7 ツユムシ.....	35
8 ラナガサハキリ.....	30

第一〇圖版



第一〇圖版



(自然大)

圖 解

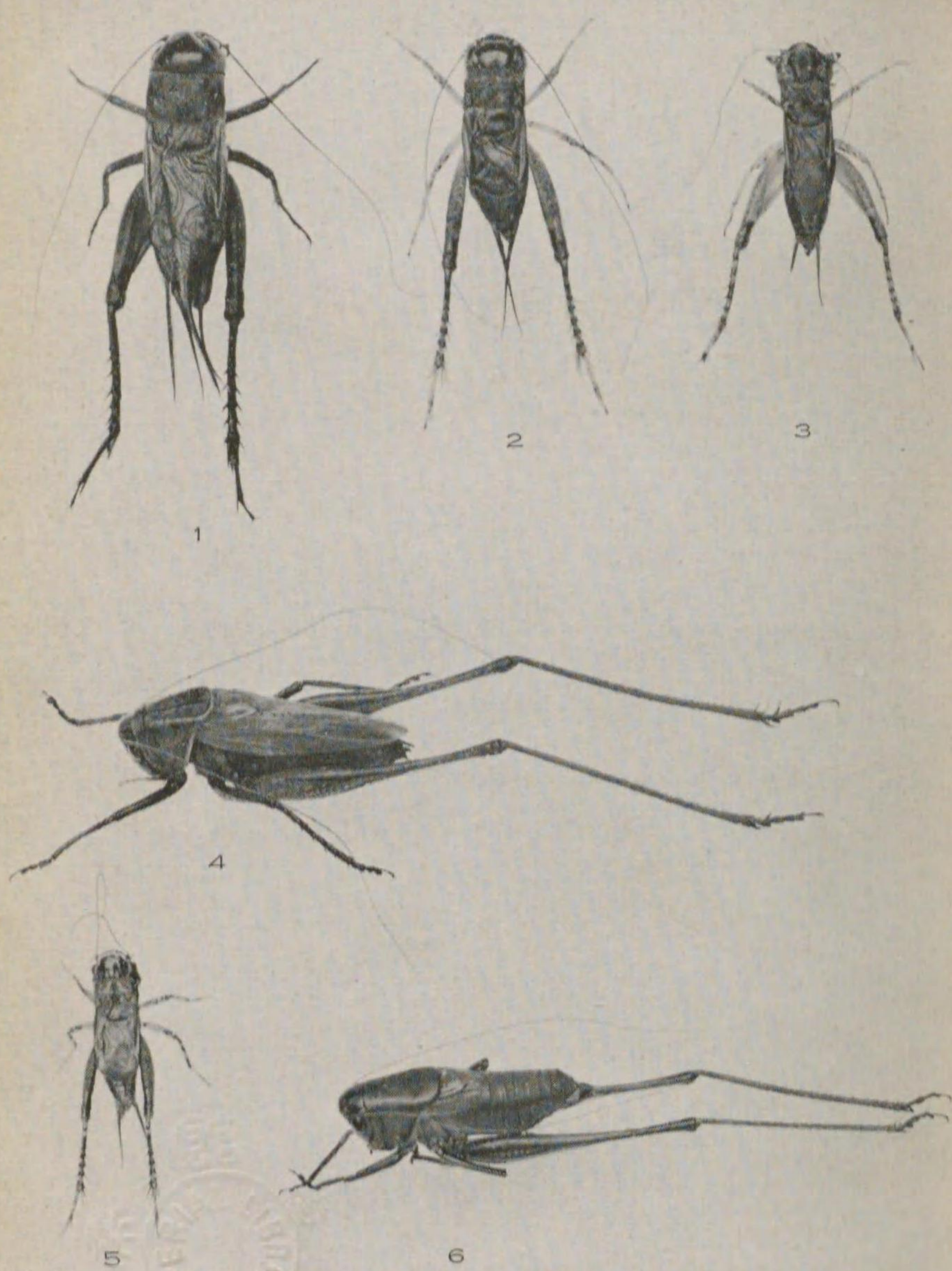
〔第一〇圖版〕

	(頁)
1 ヤブキリ.....	41
2 ウマヲヒ.....	37
3 ホシササキリ.....	23
4 クサキリ.....	25

版圖一第



第一一圖版



(自然大)

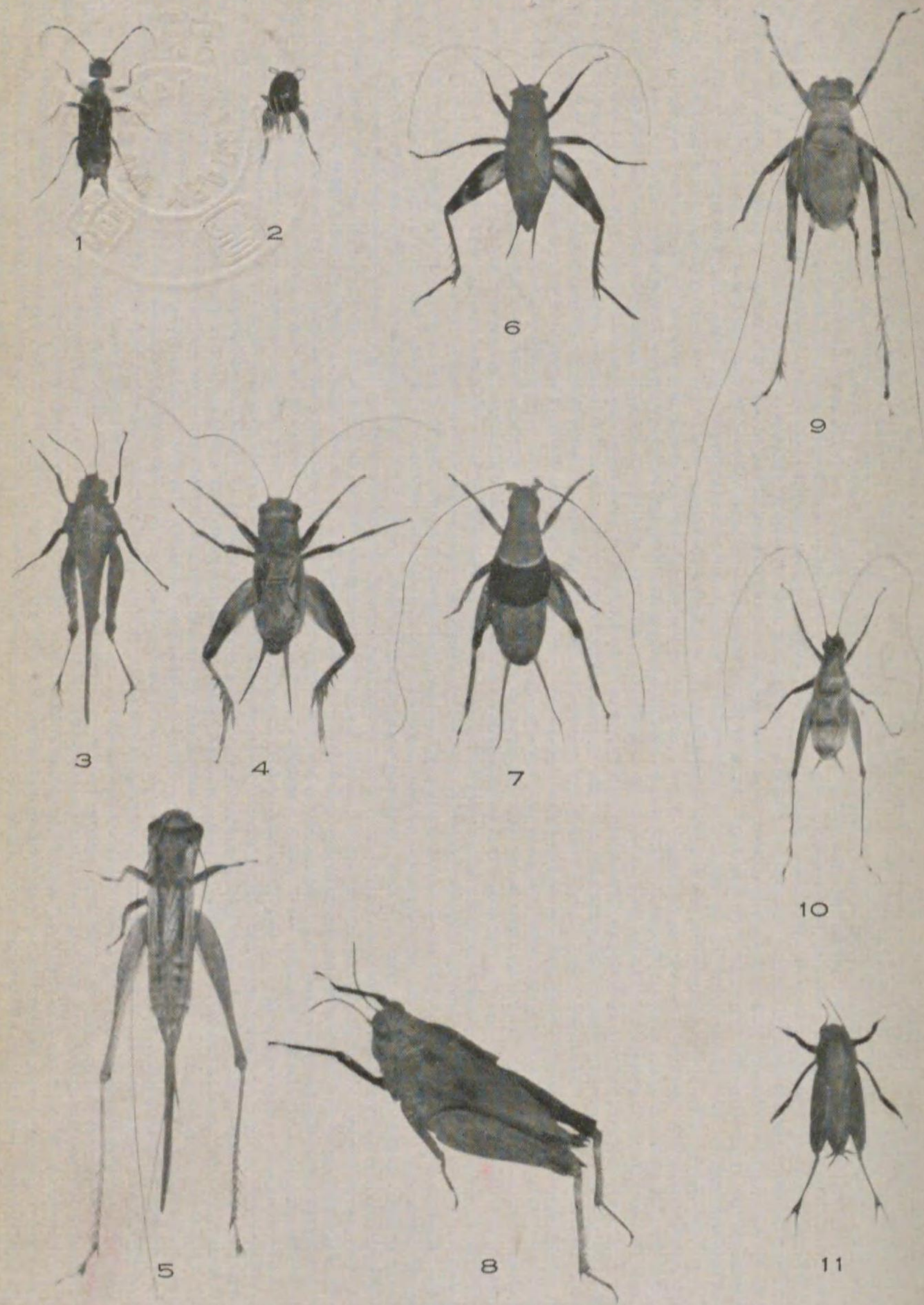
圖 解  
〔第一一圖版〕

	(頁)
1 エンマコホロギ.....	52
2 コホロギ.....	50
3 ミツカドコホロギ.....	56
4 イブキギス.....	42
5 オカメコホロギ.....	55
6 コバネキリギリス.....	43

第一二圖版



第一二圖版



(二倍擴大)

圖 解

〔第一二圖版〕

(頁)

1	チビハサミムシ	117
2	アリツカコホロギ	63
3	ハネナガヒシバツタ	92
4	ヤマトスズ	53
5	コバネササキリモドキ	67
6	マダラスズ	57
7	カネタタキ	66
8	ヒシバツタ	91
9	クサヒバリ	59
10	イブキスズ	66
11	ノミバツタ	71

第一三圖版





第一三圖版



3/4

圖 解  
〔第一三圖版〕

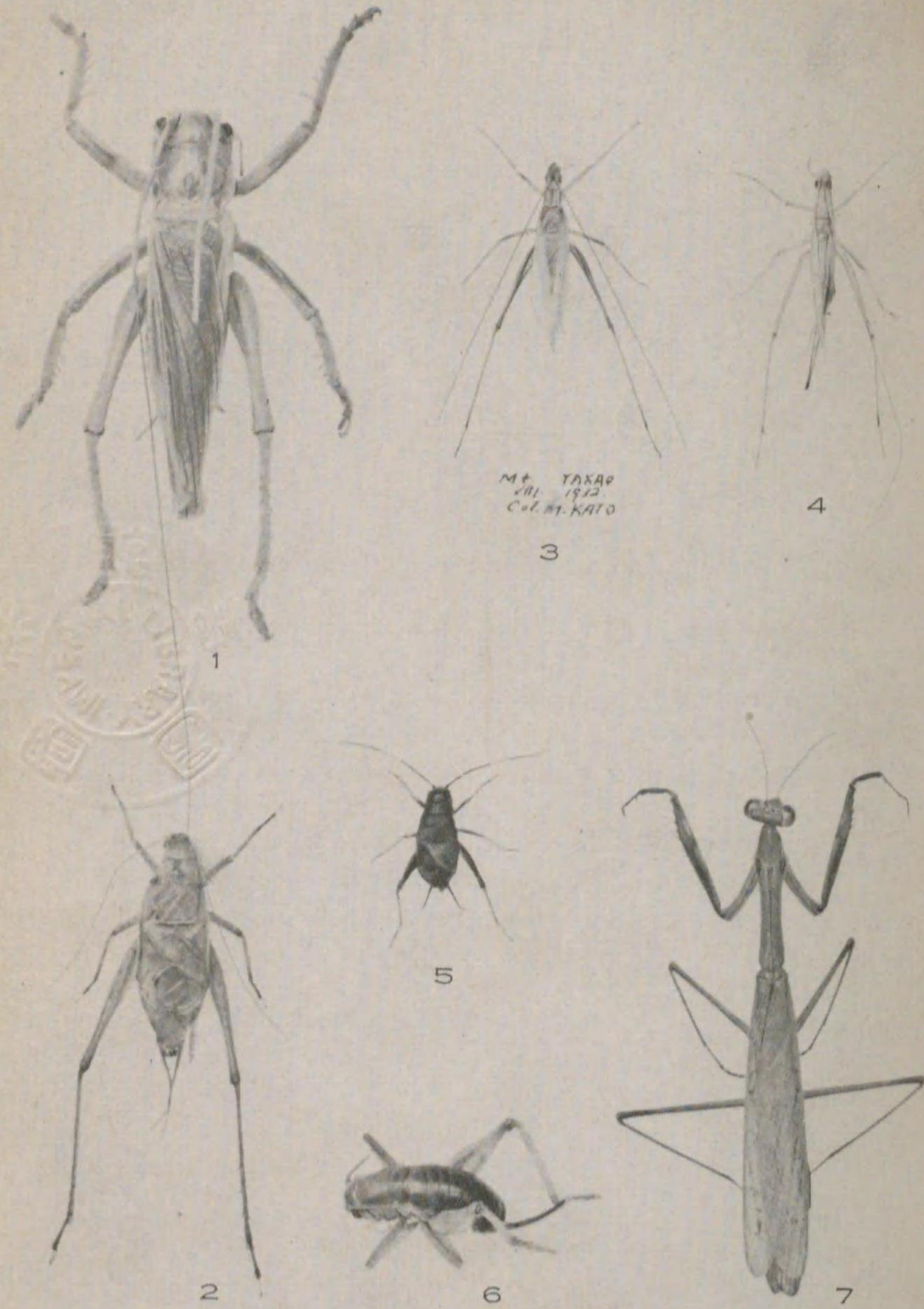
(頁)

1	カマドウマ	46
2	マダラカマドウマ	47
3	クサキリ	25

版圖四一第



第一四圖版



(自然大)

圖 解

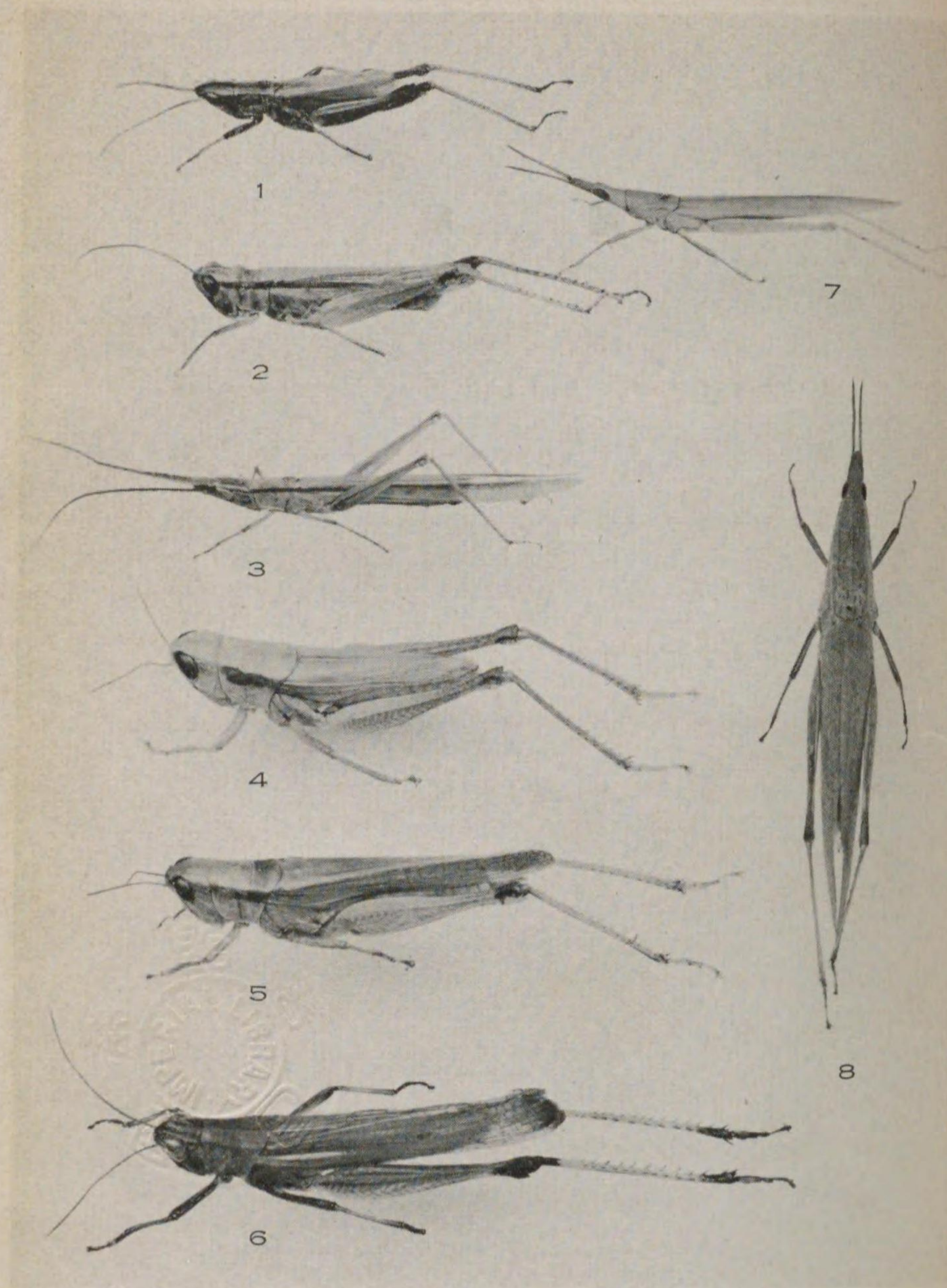
〔第一四圖版〕

	(頁)
1 コロギス.....	48
2 マツムシ.....	62
3 カンタン (雄) .....	64
4 カンタン (雌) .....	64
5 クマスズムシ.....	60
6 ハネナシコロギス.....	49
7 コカマキリ.....	98

第一五圖版



第一五圖版



(自然大)

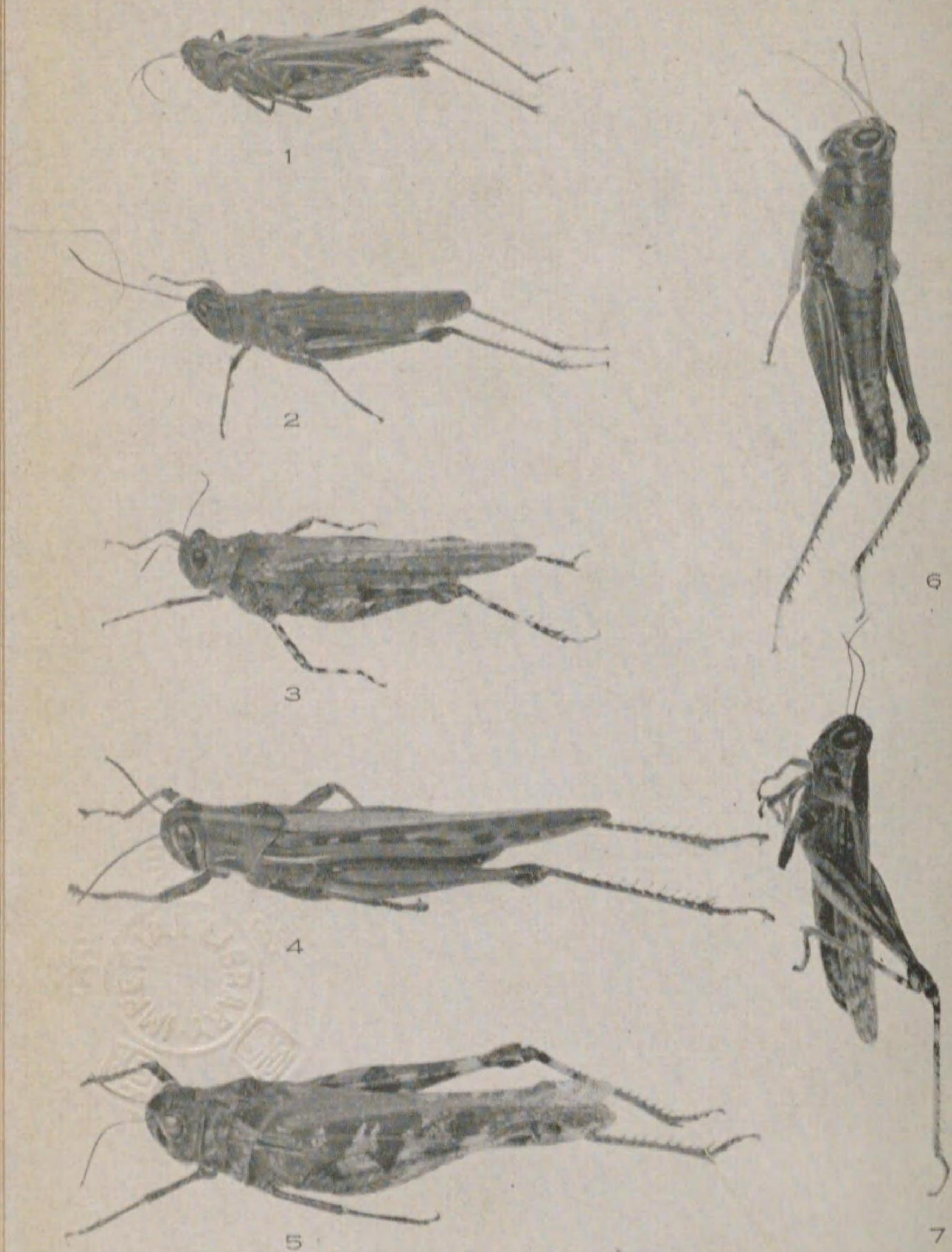
圖 解  
〔第一五圖版〕

	(頁)
1 ナキイナゴ .....	73
2 イナゴモドキ .....	84
3 キチキチバツタ .....	76
4 コバネイナゴ .....	73
5 ハネナガイナゴ .....	71
6 ツマグロイナゴ .....	83
7 オンブバツタ (雄) .....	77
8 オンブバツタ (雌) .....	77

版圖六一第



第一六圖版



(自然大)

圖 解

〔第一六圖版〕

	(頁)
1 ヒナバツタ.....	86
2 ヒヂグロヒナバツタ.....	87
3 イボバツタ.....	88
4 セスヂツチイナゴ.....	82
5 クルマバツタモドキ.....	80
6 ミヤマフキバツタ.....	90
7 セグロバツタ.....	81

第一七圖版

第一七圖版





第一七圖版

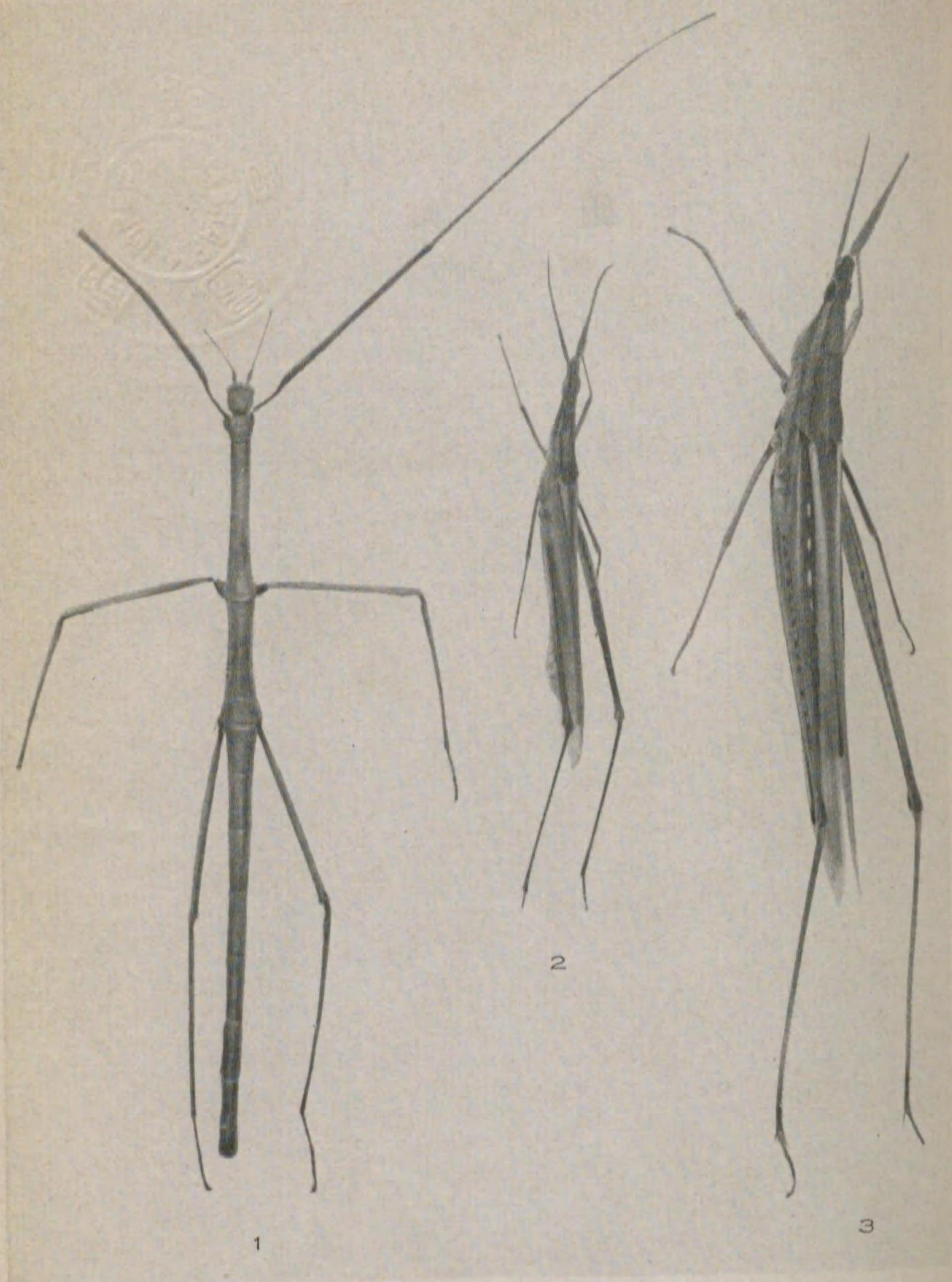


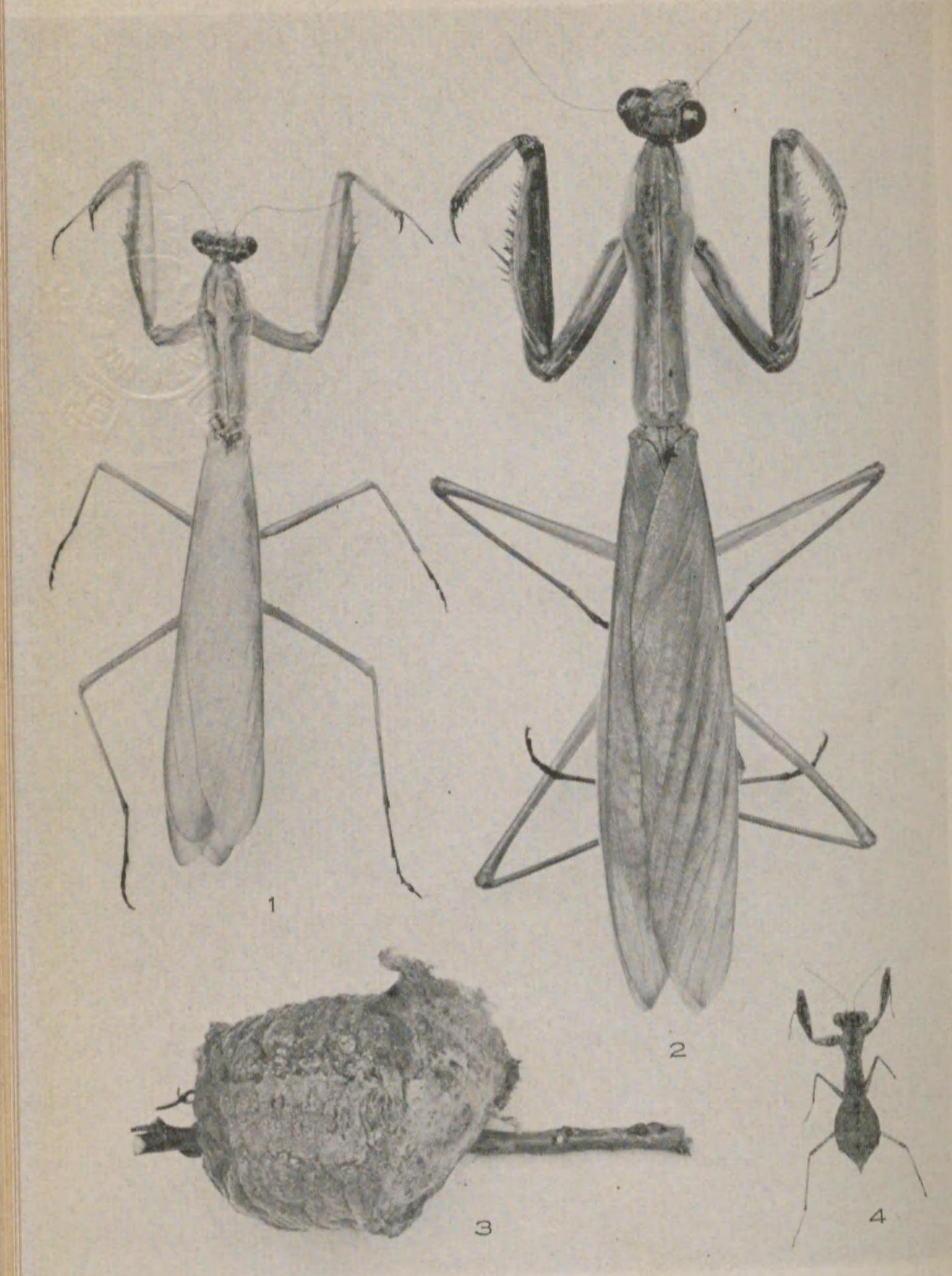
圖 解  
〔第一七圖版〕

	(頁)
1 ナナフシ.....	102
2 シヤウリヤウバツタ (雄) .....	75
3 シヤウリヤウバツタ (雌) .....	75

版圖八第一



第一八圖版



(自然大)

圖 解  
〔第一八圖版〕

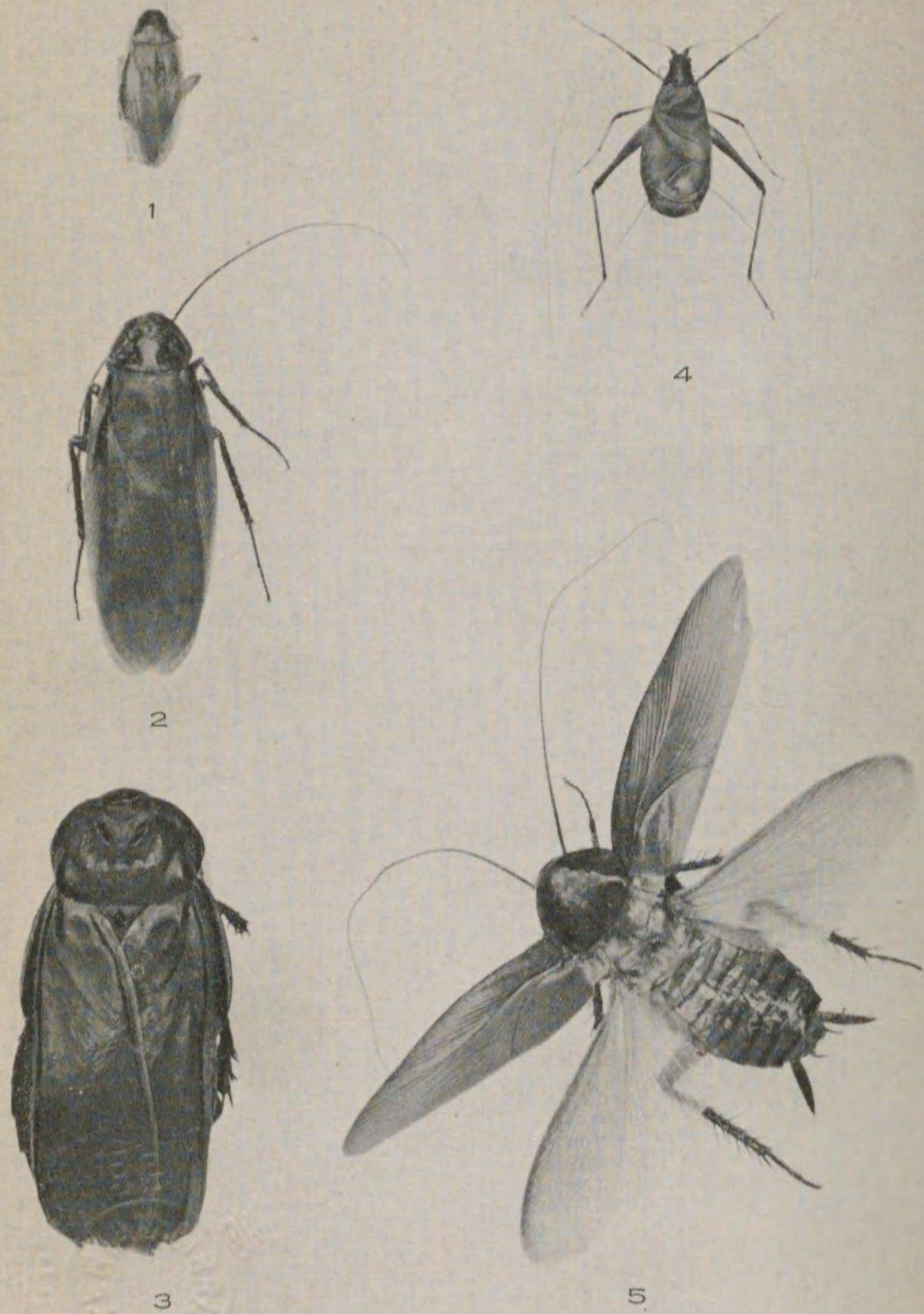
(頁)

1	ウスバカマキリ	97
2	オホカマキリ	94
3	オホカマキリの卵塊	94
4	ヒナカマキリ	101

版圖九一第



第一九圖版



(自然大)

圖 解

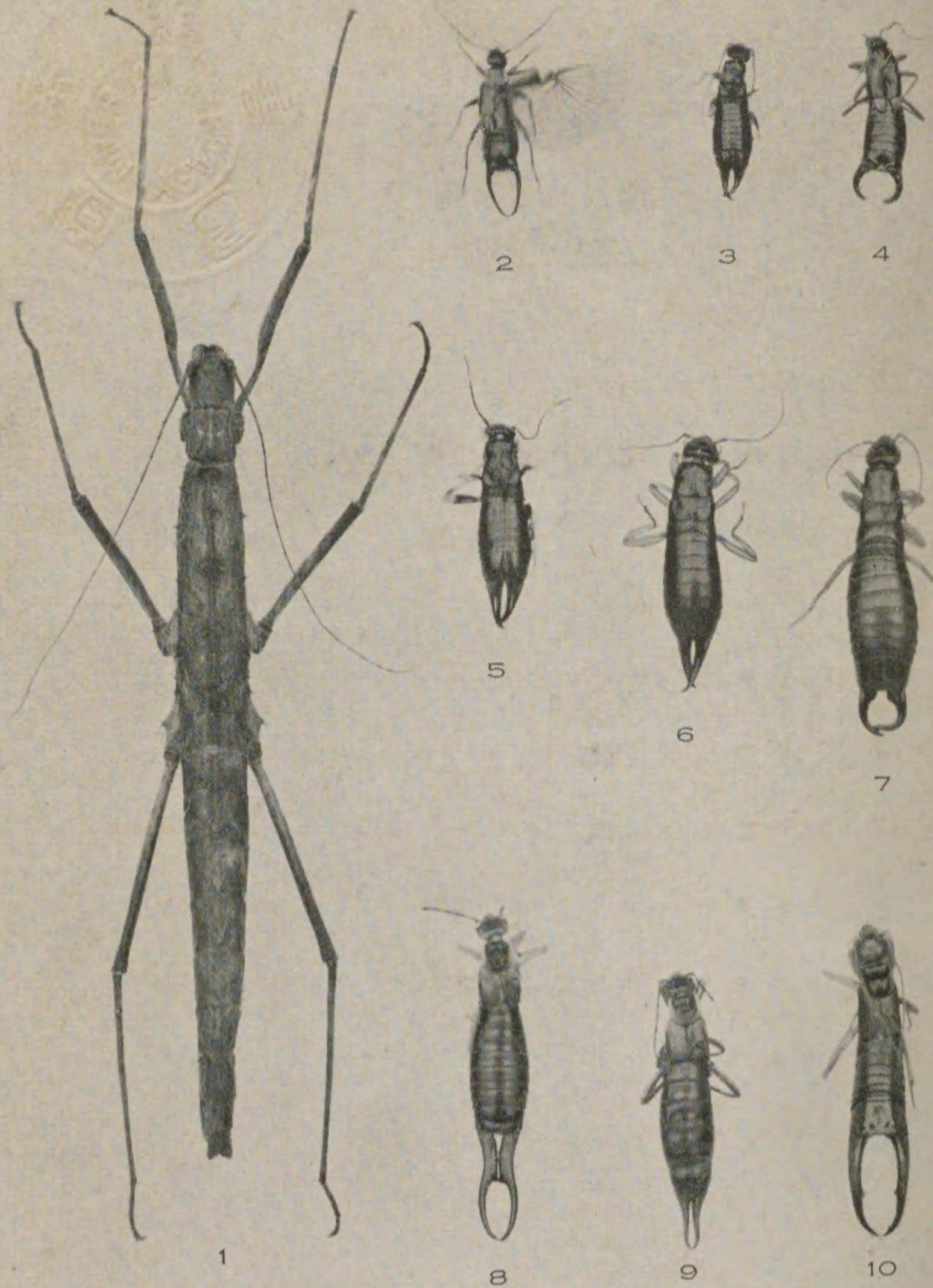
〔第一九圖版〕

	(頁)
1 チヤバネゴキブリ .....	105
2 ゴキブリ .....	104
3 オホゴキブリ .....	106
4 スズムシ .....	60
5 クロゴキブリ .....	105

第二〇圖版



第二〇圖版



(自然大)

圖 解  
〔第二〇圖版〕

	(頁)
1 トゲナナフシ.....	102
2 レウキスコブハサミムシ.....	116
3 コヒゲジロハサミムシ.....	112
4 コブハサミムシ.....	115
5 ヒゲジロハサミムシ.....	111
6 ハサミムシ(雌).....	112
7 ハサミムシ(雄).....	112
8 クギヌキハサミムシ(雄).....	113
9 クギヌキハサミムシ(雌).....	113
10 オホハサミムシ.....	114



少年昆虫圖譜 第一卷

第一編 ばつた・きりぎりすの類

バツタキ・リギリス・コホロギ等を直翅目 (Ortho-  
 ptera) と云ふ。多くは大形の昆虫で、中には美しい  
 鳴聲を出すので人に愛され、飼はれるものが澤山あ  
 る。夏の夕方、縁日に蟲屋が持つて来る鳴く蟲は皆  
 此の類である。然し河鹿は鳴く蟲の仲間であつても  
 昆虫ではない。

體の構造

體の構造 (第五圖版) 體の一番先には頭がある、頭



には一對の觸角が突き出して居るが、これはバツタの類では比較的太くて短かく、中には平たくて先の尖つた劍の様な形をしたものもある。キリギリス類のものは細くて非常に長く、中には體の數倍に達するものがある。

頭の左右に複眼を具へ、中央に單眼がある。單眼は二個或は三個で、二個の時には…の様な形になつて居り、三個の場合には…形に並んで居る。然し中には無いものもある。口は頭の下端に開いて居り、丈夫な大腮で物を噛み、その下にある小腮で食物を

中へ送り込む。大腮は人間で云へば顎に當るのであるが、上下について居らずに左右に動く處が違つて居る。小腮は吾々には無い。大腮と同じ構造であるが小さく、そして外側に一本の小腮鬚と云ふ短かい觸角の様なものを附屬して居る。

大腮の外側に上唇がかぶさつて居り、小腮の下側に下唇がある。下唇には兩側に下唇鬚と云ふ短かい附屬物がある。上唇、下唇共に吾々の唇に當るものである。

頭の次には胸がある。胸は前、中、後の三部から

出来て居て、頭に續いて居るものを前胸と云ひ、その下面から一對の前肢(前の肢)が出て居る。前胸は一番大形の部分であつて、カマキリでは細長く延長し、ヒシバツタの類は體の後方に長く延びて、背面を覆ふて居る。

中、後の兩部は殆ど接續して居て、簡単に離すことは出来ないが、中胸からは前翅と中肢(中の肢)を出し、後胸からは後翅と後肢とを出して居る。

胸の次には細長い腹部が續いて居り、コホロギやキリギリス類の雌には卵を産む爲の長い管(産卵管)

が後端から突き出て居る。バツタ類では腹部の第二節に耳を持つて居る。

肢 肢は五つの節から出来て居る(總ての昆蟲は同じである)。體に附いて居る短い節を基節と云ひ、その次の一番太い處を腿節と云ふ。腿節は吾々の腿に當る處である。腿節と基節との間に小さな轉節と云ふ部分があり、腿節に續いて比較的細長い脛節がある。これは脛に當る處である。一番先にある部分を跗節と云ひ、三個又は四個の小さい節から出来て居てその先に爪がある。

ケラの前肢はよく發達して太く、脛節は平たくなつて居てこれで土中にトンネルを掘つて住家とする。コホロギの或る種類やキリギリス類は、前肢の脛節に耳がある。注意すれば楕圓形のすきとほつた鼓膜を見ることが出来る。

カマキリの前肢は鎌の様な形になつて居て、これで食物とする他の昆蟲を捕へる。バッタやキリギリス等の後肢は非常に長く、これで地面を弾いて跳び上るのである。

翅 前翅は膜質で厚く、コホロギ、キリギリス、

バッタ等は發音器を持つて居て音を出す。後翅は薄い膜質で、縦に扇子の様に疊むことが出来る。

發音器 發音器は何れも翅にあり、雄だけが持つて居る（アフリカに産するセミバッタの類は腹部に發音器がある）。

1 「キリギリスの類」此の類は左の翅が上、右翅が下になつて重つて居て、右翅の附け根の處に圓い透きとほつた部分がある。これを發音鏡と云ひ、その外側の硬くなつた處を左側の翅の裏面にあるギザ／＼に摩擦する。その時振動が發音鏡に響いて音に

なるのである。

2 「コホロギの類」前と反對に右翅が上になつて重り合つてゐる。發音鏡はキリギリス類の様に明瞭でないが、左右兩翅共に殆んど全部が薄くて發音鏡の代りをしてゐるので、形が小さい割に大きな音が出せる。第七圖版はエンマコホロギの右翅を示したもので、上は雄、下は雌で、雄の翅は寫真に見る様に、翅脈が美しい模様になつてゐる。コホロギ類の特徴として必ず圓形に脈で圍まれた部分がある。寫真の2がそれであるが、これを發音鏡と云ふ。

キリギリス類が音を出すのは發音鏡に響くからであるが、コホロギ類では前に述べた様に殆ど翅全體に響くのである。

鳴く時にはキリギリス類と同じ方法で、左翅の右の端、寫真で云へば1に當る所を右翅（即ち寫真に出したものの裏面に横たはつてゐるギザく）（寫真の1としてある處から一直線に横たはつてゐる太い脈にギザくがついてゐる）に摩擦すると、その振動が翅に傳つて音となるのである。

鳴く蟲が各々違つた音色を出すのは、翅の動かし

方やその面積が違ふからである。

3 「バツタの類」 バツタ類も鳴くけれども前のキリギリスやコホロギの様にいゝ音ではない。發音器も不完全で、前翅の出張つた脈に後肢を摩擦して出すだけである。バツタの中でもナキイナゴやヒナバツタ等は可成大きな音をだすものである。

バツタは飛ぶ時にも一種の音をだすものである。シヤウリヤウバツタの雄は翅でキチ／＼／＼と音を立て、トノサマバツタは地面に降りしなにバツバツと特に翅の動かし方を變へて音をだす。何れも

鳴くのと同じ意味で、自分の居り場所を知らせるのであらう。

### 消化器の構造

(第六圖版)

昆蟲の消化器は種類に

依て一様でなく、直翅目の中でも肉食をするものと草食をするものでは又異つて居る。本書に掲げた寫眞は著者の手許にあつたカマキリとケラの消化器の標本を寫したものである。

寫眞の1は食道、2は食べた食物の溜る嚙嚢、3は砂嚢で、此處へ來た食物は4の肝盲管から出る消化液に依つて消化され、残りのものは5の小腸を経て

體外に運び出される。6はマルピギー氏管と云ふもので、これは消化器ではないが、丁度吾々の腎臓の様な働きがあり、血液中の廢物を取り集めて腸の中へ送るものである。

**習性** 直翅目の多くは草原や叢に棲むが、ゴキブリ類の様に、家の中や、枯れた樹の皮の下に生活するものもある。

バツタの類は草原に多く、よく飛ぶけれども餘り長く飛び続けることは出来ず、すぐに降りて来る。フィリッピンやアフリカに産する飛蝗と云ふトノサ

マバツタに似た種類は非常によく飛び、何千億匹とも知れぬ大群を爲して飛び廻り、それが畑へでも降りれば忽ち作物を喰ひ盡し、全くの丸坊主にしてしまふと謂はれてゐる。そればかりでなく、鼠や子犬迄喰つてしまひ、時としては赤ん坊も殺されることがあると云ふ。臺灣にも時々フィリッピンから群を爲して飛んで来るが、未だ大して害をしてゐない様である。

イナゴもバツタの類である。秋の日田圃を散歩するとバラ／＼飛び立つのは誰でもよく知つてゐるこ

とである。

ヒシバツタ、トゲヒシバツタ、イボバツタなど、云ふ種類は土の上によく見かける。ヒシバツタは畑に多く、そして色々な農作物を食つて生活し、トゲヒシバツタは濕つた場所に多い、時としては水の上を泳ぐのを見かけることがあるが、偶然に水に落ちてもがいてゐるのではなく、わざと中へはいり込む様に思はれる。

イボバツタは反對に乾々に干いた道路の様な場所に多い。翅の色が土に似てゐるので中々見附けにく

いが、一層甚だしいのは河原にゐるカハラバツタである。止つてゐる時にはまるきり蟲だか何だか見わけがつかないが飛び立つと薄青い美しい後翅をしてゐるのですぐに目に附く。

バツタの類は多く夏の半頃から親になり、秋になれば土の中へ卵を産んで死ぬものが多いが、中には冬の間を叢の中に過して翌春卵を産むセスデツチイナゴの様なものもある。是等は總て植物を食物としてゐる。

キリギリス類は殆ど叢に生活してゐる。中にはヤ

ブキリやホソクビツユムシの様に樹の上に棲むものもあるが、此の様な類は餘り多くない。此の類には他の昆蟲を食物とするものが多いが、同時に植物も食ふものである。

卵を産む場所は種類に依つて色々で、キリギリスは土中に産み、ササキリは草の葉の付け根の間に産み付け、クダマキモドキは樹木の小枝に縦に産みつける。これが爲暴風などで枝がその部分から折れることがある。此の蟲の産卵管は鋸の様になつてゐてそれで木の纖維を引き裂くのである。

コホロギやスズムシの類は多く石の下や藁の中、或は土の中にトンネルを掘つて棲むものである。此の様な類は體が黒又は土色をしてゐる。多くはキリギリス等の様に土中に卵を産みつけるのであるが、カネタタキ、クサヒバリ、アヤマツムシ等は樹上に棲み、卵を枝等に産みつける。アヤマツムシは常に高い樹上に棲み、體は緑色で木の葉と區別が出来ない。又枝に止つてゐる關係上他の種類の様に跳ねることが無く、這ひ廻る性質があるので後肢が短かくその代りに翅が發達してゐてよく飛ぶ。



コホロギ類には後翅の無いものが多い。中には生れつき無いものもあるが、最初は立派に生えてゐても、後に落ちてしまふものもある。スズムシ等はそのれであるが、時として落ちないで残つてゐるものはよく飛ぶことが出来る。私は且て電燈に飛んで来たスズムシを捕つたことがある。餘り珍しいので片方の翅を展翅して今でも標本にしてゐる。

なせ後翅が脱れてしまふのか不思議に思ふかも知れないが、前翅は發音器として重要な部分であるので、邪魔な後翅はいらないのであらう。ミツカドコ

ホロギやオカメコホロギ類の雄には後翅が無いが、發音器の無い雌には立派なのがあつて、飛ぶ役に立つてゐるのを見てもどうもさうらしい。

鳴く蟲 直翅目の昆蟲には鳴くものが非常に多いが、その中でも左の種類のもは昔から可愛がられて居るものである。

キリギリス、クツワムシ、ウマヲヒ、スズムシ、マツムシ、クサヒバリ、キンヒバリ、カネタタキ、エンマコホロギ、カンタン。

夏の夕方、縁日に出て来る市松模様の屋臺店は懐

しい風情の一つである。或は船の形、或は圓形に作られた蟲籠から流れて来る優しい蟲の音は、一日を汗とほこりにまみれた都會の人に新らしい気分と慰めとを與へて呉れる。田舎に住む著者にはうるさい程の蟲の音も、都會では自然の音楽として、遠い昔から今に至る迄人々に喜ばれて居るのである。

蟲の音を樂しむのは日本ばかりでなく支那でも同様である。滿洲では瓢箪を切つて作つた容れ物に少し濕つた赤土を入れ、それにコホロギを容れて飼つて置き、寒い冬が来るとそれを懷の中で温めて鳴か

せその聲を聞いて樂しむと云ふことである。斯うして時々干えんどうを噛み碎いてやれば、冬でも鳴聲が聞かれるさうであるから、日本でもやれば出來ないことはないと思ふ。百姓家の籠の割れ目などで雪の降る晩にもコホロギの鳴き聲を聞くことがあるが斯う云ふ暖い處ならば冬が来ても生きて居ることが出来るのである。

蟲屋が賣りに来る蟲は多く温室で育てたもので、野山に居るものよりは一ヶ月以上も早く鳴かせるのである。

鳴く蟲の内うちで一番ばんよく鳴くものはキリギリス、クツワムシ、スズムシ等などであるが、ウマヲヒは餘程靜かな處ところへ置かなければ決けつして鳴かない。人が近寄つてもすぐ鳴き止んでしまふ程氣難ほどましい蟲である。その代り鳴き聲は一番美しい。

近頃ちかごろ蟲屋むしやに現れ出したアヲマツムシは、二十年程前に南洋なんようの方からはるばる渡つて來たもので、日本の生れではない。現在では東京の主として市内しんないだけが産地である。

著者の子供こどもの頃、蟲屋むしやにヤマヒグラシと云ふ青い

大きな蟲を賣つて居るので、それを買つて來ては鳴かせやうとして失敗しつぱいしたものであるが、これは後のちになつてカヤキリと云ふもので、茅野かやのに多く、食物しょくもつも薄うすの葉はだけで、キリギリスの様に胡瓜かゅうりなどは喰たべず又野原ではよく鳴いても、狭せまい籠かごなどでは決して鳴かないことが解わかつた。蟲屋むしやには時々斯ときう云ふ變かり者の現はれることがある。

解 説

1 クビキリバツタ (第十三圖版3)

學名 *Eucocephalus varius* Walk.

きりぎりす科

體は淡い綠色か、黄褐色で、頭は圓錐形に尖つて居る。秋の頃親になり、日當りのいゝ羽目板や藁の間等に隠れて冬を越し、翌年の春暖い晩等に鳴く。時々晝間でも麥畑等で鳴くことがある。冬の間は全く食物を攝らないでじつとして居るが

冬ごもりをする頃になると體に脂肪分が溜り、それで體の養分を補つて居るのである。

着物に噛みつかせて引つ張ると首が抜けるので子供はクビキリバツタと云つて居るが、それが學問上の名前になつたものである。ジトと鳴く。體長三十三耗内外あり、本州、四國、九州、臺灣等に産する。

2 クサキリ (第九圖版6・第十圖版4)

學名 *Homoecoryphus lineosus* Walk.

きりぎりす科

クビキリバツタに似て少しく小さく、頭は圓味を

持つて居る。體の色は緑、黄褐、茶褐等がある。大體にクビキリバツタよりも濃い。肢は脛節から先が黒褐色を帯びて居る。

鳴聲は前種と同様ジィと鳴く。夏の頃草原に多い。日本全國、臺灣、支那、印度、ビルマ等に産する。

3 カヤキリ (第三圖版2)

學名 *Pseudorhynchus japonicus* Shiraki

きりぎりす科

體は美しい綠色、頭の兩側から胸にかけて淡い白色の線がある。體の形はクビキリバツタに似て居る

が太くて大きい。體長六十六粒程もある。

此の蟲は夏の日茅野へ行くと午後四時頃からジィジィと喧しい聲で鳴き立てる。直翅目の昆蟲は蟬と違つてつかまへられた時に鳴くものは殆どないが、此の蟲だけは體をつかまへられてもジィジィと鳴き聲を出す。蟲屋はヤマヒグラシと云つて賣つて居ることがあるが、買つて來ても殆ど鳴かずに死んでしまふ。それはキリギリスの様に胡瓜をやつても喰はないからである。

本州、四國、九州等に産する。臺灣にも別の種類

で似たものが居る。

4 ホシササキリ (第十圖版3)

學名 *Xiphidion maculatum* Le Guill.

きりぎりす科

草原に棲むササキリの一種で、體は細長くて黄褐色或は黄綠色、後翅は前翅よりも長く後方に突き出して居る。頭部は幾分細く、頭頂から前胸背へかけて幅廣く褐色、前翅の前縁近くに數個の黒點が並んで居る。これが此の種の特徴である。シユル、と鳴く。

體長二十耗内外、本州、四國、九州、八丈島、小笠原、臺灣、南洋、支那、アフリカ等に亘る廣い範圍に産する。

5 ハネナガササキリ (第九圖版4)

學名 *Xiphidion longipennis* D. H.

きりぎりす科

ホシササキリに似て居るが少しく大形で、前翅に黒い點が無い。夏の半から秋にかけて草原に普通である。鳴聲も前種と殆ど同様である。

體長二十三耗内外あるが、中に大小非常に違つた

ものがある。東京附近に多い。

6 ヲナガササキリ (第二圖版1・第九圖版8)

學名 *Conocephalus gladiatum* Redt.

きりぎりす科

秋の頃草原、稻田等に多い昆虫である、體は黄綠色で太短く、頭頂から前胸背にかけて幅廣い褐色の條がある。前翅は灰黄色で殆ど透明に近く、後翅よりも短かい。觸角は非常に長く、雌の産卵管は眞直で長い。それでヲナガササキリと云ふ。鳴聲はヂリ、ヂリ、ヂリと聞えるが、寒い日と夜

間は調子が高く、チリ、チリと鳴く。體長二十四—三十耗。

本州、四國、九州等に産する。

此の蟲に似て小さく、觸角が非常に長くて翅の短かいものがある。これをコバナササキリ *Conocephalus japonicus* Redt. と云ふ。同じ様に草原や稻田に棲み、速い調子でチリ、チリ、チリと鳴く。

7 ササキリ (第九圖版5)

學名 *Conocephalus melanum* D. H.

きりぎりす科

體は暗綠色で、前翅の前縁は黒色、觸角は非常に長い。體の形はヲナガササキリに似て居るか眼が突出して居る。此の蟲は林の中や藪蔭等の笹のある處に多い。カシヤ〜と連続的に鳴く。  
産地は本州、四國、九州等、夏の終りから現はれる。

8 ミドリササキリ (第九圖版3)

學名 *Xiphidiopsis suzuki Mats. et Shiraki*

きりぎりす科

小型の細い昆蟲である。體は淡い綠色、前翅は殆

ど半透明で、後翅は長く後方に出て居る。雌の産卵管は細く、僅かに上方に曲つて居る。後肢は他のササキリ類の様に長くない。  
體長二十二耗内外、本州、四國、九州等に産する。此の種類は京都附近に多く、灌木の葉上で捕へることが出来る。

9 セスチツユムシ (第二圖版2)

學名 *Duceia japonica Thunb.*

きりぎりす科

體は綠色又は稀に黄褐色。雄は前胸背の中央に一



本黄褐色の縦線がある。又此の線は前翅を疊んだ時翅の合せ目に續いて居るが、雌には此の線の代りに白色の線がある。前翅は後翅よりも短かく、後翅が前翅の下から出て居る部分は緑色をして居る。觸角と肢の大部分は褐色で、雌の産卵管は短かく、上向きになつて居る、

夏の終り頃から現はれ、庭先や座敷の中でツツツ、ジーチョ、ジーチョと鳴く。

體長三十二耗内外、日本内地から朝鮮、臺灣、南洋、ニューギニア等に迄廣く産する。

ツユムシ

(第九圖版7)

學名 *Phaneroptera nigroantennata* Br. v. Watt.

セスチツユムシに似て居るが細形で濃い緑色をして居る。前翅は可成り短かく、細かい黒點を散布して居り、觸角は暗黄色で翅を疊む時には背の上に黒褐色の紋を現はして居る。體長は二十六耗位で山地に多い。

北海道、本州、四國、九州、臺灣等に産する。

11 ナカノツユムシ (第二圖版6)

學名 *Phaneroptera nakanoensis* Shiraki

さりざりす科

大體ツユムシに似て居るが、體は濃い綠色、複眼は高く突出して居り、觸角は黒褐色、腿節と脛節とは暗褐色である。

體長三十六耗内外あり、東京附近に産する。

12 ホソクビツユムシ (第三圖版1)

學名 *Isotima japonica* Shiraki

さりざりす科

ツユムシに似て居るが大形で太い。體は黄綠色、前翅の幅廣く、中高にふくれて居るので、翅を疊む

と體が圓まつて見える。觸角は褐色で、前翅の接合部と肢の大部分は黄褐色である。後翅は前翅よりも長く、外に現はれて居る部分は綠色をして居る。

此の蟲は他のツユムシ類と異り、灌木の葉上で晝間鳴く。鳴聲はチ、チ、チキチと聞える。本州の山地に多い。著者は京都貴船、衣笠、富士山、千葉縣津田沼、岐阜縣谷汲村等で獲た。又日本アルプスにも産すると云ふ。體長三十三耗内外。

13 ウマラヒ (第十圖版2)

學名 *Hexacentrus japonicus* Karny

きりぎりす科

スイツチヨとも云ふ。體は美しい緑色、前肢の脛節に六對の鋭い刺がある。前翅は幅が廣く、三角形で、發音器のある部分は褐色である。後翅は體外に延長して居ない。

雌の前翅は幅狭く、背面は細く褐色である。體長三十四耗位、スイーチョと美しい聲で鳴く。夏の半から秋にかけて現はれ、夜ランプを慕つて室内に飛び込んで来る。

14 クツワムシ (第四圖版1)

學名 *Mecopoda nipponensis* D. H.

きりぎりす科

ガチャガチャとも云ふ。翅の幅廣く、頭部は小さい。體の色は緑色と褐色とある。緑色のものでは發音器の處と觸角や肢の大部分が褐色である。後肢は割合に長い。

夏の終り頃から現はれてガチャ／＼と喧しく鳴くが、人々から愛好されて飼はれることが多い。體長五十耗内外あり、本州、四國、九州、臺灣、支那等に産する。臺灣産のものは體が非常に大きい。

15 キリギリス (第三圖版3)

學名 *Gomposocleis burgeri* D. H.

きりぎりす科

きりぎりす科の代表的昆蟲である。夏日草原、叢等に多く、ギョツチヨンと鳴く。

體の色は綠色又は褐色で前翅に黒い紋がある。綠色の種類では、前翅の重ね合さる部分は褐色である。前翅の長さは一定して居らず、腹部の先が現はれて居る程短かいのや、すつと長く延びて居るものもある。褐色のものをアブラキリギリスと云ふ。

16 ヤフキリ (第十圖版1)

學名 *Tettigonia orientalis* Uvar.

きりぎりす科

キリギリスは一名ハタヲリとも云ふ。鳴聲が機を織る時の音に似て居るからで、京都地方の諸君はその音をよく御存じのことと思ふ。

體長は四十五糎内外、樺太、北海道、本州、四國九州等に産する。鳴く蟲として愛好される一種である。

キリギリスに似た昆蟲であるが、常に樹の上に棲

んで居る。體は綠色、前胸背の中央に褐色の大紋がある。前翅の重ね合さる部分は褐色、肢は黄褐色で、前翅は長い。時として肢の黒褐色のものがあるが、それは變種である。

きりぎりす科の内では最も早く現はれ、六月頃鳴聲が聽れる。その聲はチキ〜〜〜と云ふ様である。鳴く時によく注意して居ると、一寸した風が吹く度に鳴く様である。

體長四十五耗内外、本州、四國、九州等に産する。

17 イブキギス

(第二圖版3・第十一圖版4)

學名 *Metrioptera japonica* Boliv.

きりぎりす科

キリギリスに似て居るけれども、小形で黒褐色、光澤がある。中に翅の重ね合ふ部分が綠色のものもある。翅は體より短いのが普通であるが、中に非常に長いものもある。體長廿耗内外、鳴聲はヤブキリに似て居るけれども音が小さい。六七月頃草原に多い。産地は北海道、本州など。初めて伊吹山で發見されたのでイブキギスと名附けられた。

18 コバネキリギリス

(第十一圖版6)

きりぎりす科

學名 *Metrioptera bonneti* Boliv.

イブキギスに似て居るが翅が非常に短かくて僅かに發音器の部分が有るだけに過ぎない。體は光澤のある暗黄褐色、前胸背の兩側に黒い紋があり、その後縁は白色である。

夏の日堤などの草中でチリ、チリ、チリと鋭い聲で鳴く。本州に普通である。

19 クタマキモドキ (第二圖版5)

學名 *Holochlora japonica* Br. v. Watt.

きりぎりす科

翅の長い大形の種類で、體は美しい緑色をして居り、幾分光澤がある。觸角は黄褐色、後翅は前翅よりも長く出て居り、その部分は緑色である。秋の頃現はれて、主に樹の上に棲んで居るが、鳴聲は貧弱でキリ／＼と云ふ様に聞える。

體長六十五耗内外あり、本州、四國、九州等に産する。

クツワムシに似た形をして居るが翅の幅が狭く、雌の産卵管はツユムシ類の様に短かくて上の方に曲

つて居る。

20 カマドウマ (第一三圖版1)

學名 *Distrammema apicalis* Br. v. Watt.

かまどうま科

體は短かく、背中は圓く高まつて居る。體は一様に暗褐色、尾端に二本の長い附屬物がある。翅は全く無く、産卵管は短かい。觸角と後肢とは非常に長い。

體長二十耗内外あり。縁の下、物置等に棲み、夜間食物を探しに臺所へ出て來る。「縁の下コホロギ」

「いとど」等とも呼ばれる。産地は北海道、本州等。

21 マダラカマドウマ (第一三圖版2)

學名 *Distrammema marmorata* D. H.

かまどうま科

カマドウマに似て居るが體は淡い黄褐色で黒い不規則な斑紋がある。觸角は暗褐色、肢にも暗色の斑紋がある。體長二十耗内外、日本全國、ヨーロッパ等に産する。前のカマドウマと一緒に棲んで居るが、林間の古い樹木或は洞穴等にも発見される。ヨーロッパへは日本から渡つて行つたものであると云ふ。

22 コロギス (第一四圖版1)

學名 *Gryllacris japonica* Mats. et Shiraki

ころぎす科

コホロギとキリギリスを一緒にした様な形の昆虫である。何れも樹の上に棲み、雄には發音器が無い。従つて耳も無い。

體は太くて黄綠色、頭と前胸とは光澤がある。前翅は黄褐色で前縁は綠色、後翅は前翅よりも少し長く、非常に幅が廣い。觸角は頗る長く、體の數倍ある。産卵管は餘り長くなく、上の方へ曲つて居る。

體長二十二耗内外、本州に産する。著者は臺灣で此の蟲の仔蟲と思はれるものを採つたが、未だ親は見つからない。又ニューギニア産の昆虫の内に此の種の雌と殆ど同じ形のものがはいつて居るが、同地にも産するものらしい。

コロギスの面白い習性は、仔蟲時代に絲を出して木の葉を綴つて巢を造り、その中に棲むこと、雄の親蟲は後肢を他の物に打ちつけてトン／＼と音を出すことである。

23 ハネナシコロギス (第十四圖版6)



學名 *Eremus testaceus* Shiraki

ころぎす科

コロギスに似てゐるが小型で翅が無く、黄褐色の光澤ある種類である。カマドウマに似た處もあるが體は圓筒形で後肢は短かい、又灌木の小枝に棲んでゐるので區別出来る。體長十三耗位、著者は東京市内、京都等で採集したが餘り多くない。

24 コホロギ (第十一圖版2)

學名 *Gryllodes berthellus* Sauss.

こほろぎ科

夏の終りから秋に掛けて石の下、臺所等で哀れげに鳴く種類である。

體は暗色で、頭部は圓く大形、黄白色の斑がある。前翅は腹部よりも少し短かい。雌では一層短かく、兩方共に後翅は無い。體の下面と肢とは大部分黄白色で、觸角は體長の二倍近くある。

鳴き聲はリ、リ、と云ふのであるが、聞き様に依ては「裾刺せ肩刺せ」又は「つゞれ刺せ(ぼろを縫ふと云ふ意味)」等とも聞える。どちらにしてもその聲にふさわしい。秋風の身に浸む様な鳴き聲の形容で

ある。

昔の歌に「きりぎりす」と詠まれたのは皆此の蟲のことで、今のキリギリスは「はたおり」と云つたのである。近頃ヤマトコホロギ、ツヅレサセコホロギ等とも呼ばれて居るが著者は此の蟲に附けられた古い名稱であり、且つ最もふさわしいコホロギと云ふのを用ひてゐる。

北海道、本州、四國、九州、朝鮮等に普通である。

25 エンマコホロギ (第十一圖版I)

學名 *Gryllus mitsubatus* Burm.

こほろぎ科

日本内地産のコホロギ類中では最も大形の種類である。體は黒褐色で、頭は大きく光澤がある。肢は黄褐色、復眼の附近に黄褐色の部分がある。觸角は暗褐色で體よりも少しく長い。前翅は腹部よりも僅かに短かく、その下から疊まれた後翅が長く尾の様に突出て居る。雌雄共に後翅が發達して居て、夜室内へよく飛び込んで来る。

夏の半頃から現はれ、コロコロコロリリリリと鳴く。郊外には普通で農作物を喰ひ荒す害蟲であ

るが、聲がいゝので人々に愛される。

體長二十四耗内外、本州、四國、九州、朝鮮、臺灣、支那、ジャヴァ、ニューギニア等に産するが、熱帯地方では年二回發生するので、臺灣あたりでは四月頃既に鳴き聲を聴くことが出来る。

26 クマコホロギ (第九圖版2)

學名 *Gryllus minor* Shiraki

こほろぎ科

小形のコホロギで、體に光澤のある黒褐色、肢は黄褐色で前翅は短かく、雄雌共に後翅が無い。觸角

は體長の二倍半位の長さである。

夏の半頃草原等で發見されるが餘り多くはない。體長九耗内外、本州、九州、臺灣等に産し、チ、

27 オカメコホロギ (第十一圖版5)

學名 *Loroblemmus arietulus* Sauss.

こほろぎ科

小形のコホロギである。體は淡い暗黄色で顔が平たく、「おかめ」の面に似てゐるので此の名がある。頭には黄色の紋がある。雄の前翅は短かくて後翅が

無いが、雌は立派な後翅を持つて居て、夜間ランプに飛んで来る。又雌の顔は平たかない。觸角は體の長さと同様である。

體長十四耗内外あつて、本州、四國、九州等に産し、夏の終り頃から畑、藁の下等に普通である。チ、と鳴く。

23 ミツカドコホロギ (第十一圖版3)

學名 *Isoblemmus doenitzi* Sauss.

こほろぎ科

オカメコホロギに似て大形で、顔は一層平たく複

眼の處には角の様に突き出した部分がある。前翅は短かく、後翅は雄に無いが、雌は立派なのを持つて居て飛翔する。雌の顔は平たかない。

體長十七耗内外、本州、四國、九州等に産し、チ、と鳴く。

29 マダラスズ (第十二圖版6)

學名 *Nemobius nigrofasciatus* Mats.

こほろぎ科

小さな種類である。體は黒褐色で、後肢の腿節に黄白色と黒色との斑がある。

草原に多く、ジージー(リーの音に近い)と優しい鳴聲を出す。北海道、本州、四國、九州、臺灣等に普通である。體長六耗内外。

30 ヤマトスズ (第一二圖版4)

學名 *Nemobius mikado* Shiraki

こほろぎ科

マダラスズに似た昆蟲で、同じ様な場所に棲んで居るが、體は一樣に淡褐色である。鳴聲はジージーと聞え、マダラスズに似てゐるが、リーと云ふ音を含んでゐないので聞き分けることが出来る。

體長六耗内外。本州、四國、九州、臺灣等に産し、草原に棲む。

31 クサヒバリ (第一二圖版9)

學名 *Paratrignidium bifasciatum* Shiraki

こほろぎ科

體は淡い黄褐色、前翅は幅廣く半透明である。觸角は長く、體の數倍に達し、後肢は長く、その腿節に黒褐色の長い紋がある。

常に灌木に棲み、晝夜の別無くチリ、、、と美しい聲で鳴く。體長六耗内外あり、本州、四國、

九州、朝鮮等に産する。鳴く蟲として有名である。

32 クマスズムシ (第十四圖版5)

學名 *Scleropterus coriaceus* D. H.

こほろぎ科

スズムシに似た小型の昆蟲である。體は光澤のある黒色、觸角は體の長さよりも少しく長く、黒色で中途に白い部分がある。前翅は幅が廣く、先の方は圓くて腹部の末端に達してゐる。體長は九耗内外あり、本州、四國、九州、臺灣、ジャヴァ等に産する。

33 スズムシ (第一九圖版4)

學名 *Homoeogrillus japonicus* D. H.

こほろぎ科

鳴く蟲として最も有名な昆蟲である。體は淡い黒色、頭部は小さく、雄の翅は幅が廣くて先の方が圓くなつてゐる。雌は翅の幅が狭く、爲に體は細形に見える。

觸角は體長の約二倍あり、後肢は長い。體長十五耗内外ある。

本州、四國、九州、臺灣等に産するが、臺灣産のものは鳴き聲がリリリと二三回だけで、内地のもの

の、様に長く續けない。

昔は「まつむし」と云つた相である。

34 マツムシ (第一四圖版2)

學名 *Dionymus marmoratus* D. H.

こほろぎ科

體は淡い黄褐色、半透明で數個の黒點を持つて居り前翅は幅が廣くて長く、先の方は尖つてゐる。後翅は發達してゐて、前翅の下から尾の様に突き出てゐる。後肢は甚だ長い。

體長十八粒内外あり、本州、四國、九州、臺灣等

に産する。

此の蟲は割合に普通で、薄の多い叢に棲み、チンチロリンと鳴く。昔はこれを鈴蟲と云つたさうである。

35 アヤマツムシ (第四圖版2)

學名 *Madasumma tibionis* Mats.

こほろぎ科

マツムシに似た大形の昆蟲であるが、體は一樣に美しい緑色である。前翅の中央部に透明の部分があり、後肢は短い。觸角は體長よりも少しく長い。

前翅は幅廣く、先の方が尖つてゐる。後翅は發達してゐて前翅の下から少しく露はれて居り、よく飛翔する。

常に樹の上に棲み、八月末からリリリと云ふ鋭い美しい聲が聽かれる。體長二十耗内外。此の蟲は二十數年前南洋方面から渡來したものらしいが、未だその生れ故郷は解らない。現在では東京附近に非常に多いが、何分にも高い樹の上に居るので中々捕れない。

36 カンタン (第一四圖版3・4)

學名 *Oecanthus longicauda* Mats.

こほろぎ科

ツムシに似た小さい弱々しい蟲である。體は淡い黄色、翅は細長くて殆ど透明である。觸角は體長の約二倍後翅は、發達して居る。

北海道、本州、四國、九州、朝鮮、滿洲等に産し、大豆、葛等の荳科植物に多い。東京では高尾山で捕ることが出来る。鳴蟲中で最も値高く、リ、リ、と云ふ低い鳴聲を出す。

37 イアキスズ (第十二圖版10)



學名 *Homoeoxipha lycoides* Walk.

こほろぎ科

カンタンに似た小さい昆虫である。體は赤褐色、前翅は淡黄色で殆ど透明、肢は暗褐色で細い。觸角は體長の一倍半位ある。

體長五耗内外、本州、四國、九州、臺灣等に産する。東京附近では九月頃薄暗い林の下草中に多くリリリリと抑揚のある弱い聲で鳴く。

38 カネタタキ (第十二圖版7)

學名 *Liphoplus kanetataki* Mats.

こほろぎ科

體は淡い黄褐色、前胸背の後縁は圓く擴がり、前翅の基部を覆ふて居る。腹部は黒色、體に銀白色の鱗毛をつけて居る。

前翅は黄褐色で甚だ短かく、觸角は體長の約一倍半ある。體長八耗位、本州、四國、九州等に普通である。夏の半頃より現はれ、庭木、垣、天井等でチン〜と鳴く。雌には翅が無い。

39 コバネササキリモドキ (第一二圖版5)

學名 *Euscirtus japonicus* Shiraki

こほろぎ科

體は淡黄色で細長く、頭部は大形で黒褐色の四縦紋がある。前胸背の中央は暗褐色で、兩側に黒い條がある。前翅は短かく、發音器が無い。雌の産卵管は非常に長い。

體長九耗内外、本州、四國、九州、朝鮮、臺灣、支那、インド等に産し、草原に普通である。

40 アリツカコホロギ (第二圖版2)

學名 *Myrmecophilus japonicus* Mats.

こほろぎ科

體は圓く、翅の無い微小な種類である。體は一樣に褐色、金色の短かい毛で覆はれて居る。後肢は發達して居り、腿節は非常に太い。體長二耗半内外、北海道、本州等に産する。

これはアカアリの巢に棲んで居るのであるが、時々石の下等でも發見される。

41 ケラ (第二圖版7)

學名 *Gryllotalpa africana* Pal.

けら科

複眼は小さく單眼は二つある。前胸は卵形で非常に

大きく、中胸との間は縊れて居て自在に動かすことが出来る。體には一様に暗黄色でビロードの様な毛が生えて居り、滑かである。

前肢は短かく、脛節は擴がつてモグラの手の様になつて居る。これで地面にトンネルを堀るのである。

前翅は短かくて雄では發音器になつて居り、後翅は大きくてよく飛ぶ。體長二十八耗内外、日本全國の外支那、印度、アフリカ等にも産する。

常に土中に棲み、石の下等でジィに似た低い聲で鳴く。昔の人はこれをミ、ズが鳴くと云つた。雌に

は産卵管が無く、産んだ卵を保護して子供を育てるので有名である。

41 ノミバツタ (第十二圖版II)

學名 *Tridactylus japonicus* D. H.

のみばつた科

ケラに似た形をした小さい昆蟲であるが、前肢はケラの様<sup>に</sup>に發達して居らず、單眼は三個ある。後肢はよく發達して居てピン〜飛ぶのでノミバツタと云ふ。

體は黒色で黄銅色の光澤がある。前翅は短かく、

後翅は長い。腹の先に四本の短かい突起がある。體長五耗内外、日本全國に産する。これは日當りのいゝ庭先や畑等に多い。

41 ハネナガイナゴ (第十五圖版5)

學名 *Oryza velox* Fabr.

ばつた科

イナゴとも云ふ。稻田に多い昆蟲で、體は黄綠色前胸の兩側に褐色の太い縦條がある。前翅は腹端よりも長い。體長四十三耗内外ある。卵は塊めて土中に産みつけられ、その周圍は硬い皮で包まれて居る

この皮を卵鞘と云ふ。

本州、四國、九州、琉球、臺灣、支那、印度、ジャバア等に産し、日本では食用にする。

44 コバネイナゴ (第十五圖版4)

學名 *Oryza vicina* Br. v. Watt.

ばつた科

ハネナガイナゴに似て居るが翅は短かくて、腹部の先を越えて居ない。體長二十七耗内外、前種同様食用となる。

本州、四國、九州、琉球、臺灣、支那等に産する。

45 ナキイナゴ (第十五圖版1)

學名 *Mongolotettix japonicus* Boliv.

ばつた科

イナゴに似た小さい昆蟲である。六月頃から薄の多い草原に現はれ、カシャ〜と鳴く。

體は黄色、觸角は平たくて長い。前翅は短かくて腹部の先を越えて居ない。後翅は退化して居て非常に小さい。雌の體は大形で前翅は甚だ小形である。體長二十耗乃至二十五耗内外。北海道、本州等に産する。



46 シヤウリヤウバツタ (第十七圖版2・3)

學名 *Acridia lata* Motsch.

ばつた科

大形の細長いばつたである。頭部は細く尖り、觸角は平たくて劍の様な形をして居る。雌と雄とは大きさが非常に違つて居る。體の色も様々で、總體に綠色のもの、總體に褐色のもの、又は白い紋のあるもの等ある。

雄は飛ぶ時にキチ〜と云ふ音を出すので、キチキチバツタとも呼ばれる。

體長(雄)三十九耗、(雌)八十耗内外、本州、四國、九州、臺灣、支那等に産する。

47 キチキチバツタ (第十五圖版3)

學名 *Gelastorhinus bicolor* D. H.

ばつた科

シヤウリヤウバツタに似た形をした種類であるが頭は短かく、後翅も短かくて不活潑である。體は綠色或は多少赤味を帯び、前胸の兩側に黒紫色の縦條がある。觸角は劍狀で長い。雌雄大きさが違ふが、シヤウリヤウバツタ程甚だしくはない。

體長三十三—五十耗内外、秋の頃薄に多い。飛ぶ時にキチ／＼と音を出す様に書かれた本が澤山あるが、それは誤りで、決して音を出さない。それであるからキチキチバツタといふのは變であるが、使ひ慣されて居るので現在では此の名が用ひられて居る。

本州、四國、九州、臺灣等に産する。

48 オンフバツタ (第一五圖版7・8)

學名 *Atractomorpha bedeli* Boliv.

ばつた科

これもシヤウリヤウバツタに似た形をして居るが

一層小形である。頭は圓錐形に突出し、觸角は劍狀である。雄は雌よりも甚だしく小形である。

體は綠色又は黄褐色、後翅は透明で幾分黄色い。體長二十七耗(雄)、四十耗(雌)。

サツマイモ、雜草類の葉を食ふ。本州、四國、九州、朝鮮等に普通である。

49 トノサマバツタ (第三圖版4)

學名 *Locusta danica* Linn.

ばつた科

大形のバツタである。ダイメウバツタともいふ。

體は黄褐色或は綠色、前翅は淡い灰色で、黒褐紋がある。黄褐色の種類では後肢の腿節は黄褐色、綠色のものではそれが綠色で、兩方共に後肢の脛節は赤い。體長五十一至五十六耗、日本全國に産し、夏の半頃より草原に多い。

50 クルマバツタ (第二圖版4)

學名 *Gastromargus transversus* Linn.

ばつた科

これも草原に多いバツタである。トノサマバツタよりも少しく小形で、前胸背の中央は高く龍骨の樣

に出て居る。前翅は灰色で黒褐紋があり、背面は緑色又は褐色である。後翅は淡黄色で、中央部に黒色の広い帯がある。飛んで居る時に丁度車の廻る様に見える所からクルマバツタと云ふ。

體長五十三粒内外、日本全國の他印度、ジャヴァ等の熱帶地方に多い。

51 クルマバツタモドキ (第五圖版・第十六圖版5)

學名 *Oeddeus infernalis* Sauss.

ばつた科

クルマバツタによく似た種類であるが、多くは暗

褐色で、體の緑色を帯びたものは少い。前胸背の中央は龍骨の様に出て居るけれども低い、そしてその兩側に向ひ合つた「く」の字形の黒紋があるので區別することが出来る。後翅は大體クマバツタに似て居り、太い黒色の帯がある。

草原に多く、本州、四國、九州、臺灣等に産する。

52 セグロバツタ (第十五圖版7)

學名 *Eupreponemis shirakii* Boliv.

ばつた科

小型暗褐色のバツタである。前胸背の中央は出張



つて居らず平らで、一樣に黒色である。前翅には多數の黒紋を具へて居り、後肢の脛節は大部分紅色である。

體長三十一四十耗位、本州、九州、ヨーロッパ等に産する。

此のバツタは秋の終り頃、林に近い叢中に發見される。

53 セスチツチイナゴ (第十六圖版4)

學名 *Patanga succincta* Linn.

ばつた科

稍々大型のバツタで、體は黄褐色、頭部から前胸背の後端に掛けて幅廣い黄白色の縦條がある。前翅は淡い黄色で、附け根は黄白色、黒紋が少しある。

體長三十二耗から四十耗位、本州、四國、九州、朝鮮、支那、馬來、印度等に産する。これは雜草中に冬を越し、翌年の春再び現はれて活動する。

54 ツマグロイナゴ (第十五圖版6)

學名 *Mecostethus magister* Rehn.

ばつた科

イナゴに似たバツタであるが、少しく大型である

體は灰色を帯びた黄色で、前翅の付け根に白色の縦條があり、翅の先きと後肢の膝は黒色である。

體長三十五耗(雄)、五十耗(雌)位、六七月頃に草原に現はれるが、京都附近には普通である。私は未だ東京附近で獲たことがない。

55 イナゴモドキ (第十五圖版2)

學名 *Parapleurus alliaceus* Germ.

ばつた科

體は黄綠色、ハネナガイナゴに似た小さい種類である。頭部の兩側から前胸背、前翅等にかけて黒い

條がある。

イナゴ類の前翅は前縁が深く刻られて居るが、イナゴモドキでは刻られて居ないから區別することが出来る。

體長三十耗内外、日本全國、ヨーロッパ等に産する。秋期平地の草原に多い。

56 カハラバツタ (第四圖版4)

學名 *Sphingonotus japonicus* Sauss.

ばつた科

體は灰色、又は黒味がかつた黄色、前胸の前方は

細く縊くもれて居る。前翅まへはねには淡黒い斑紋はんもんを具へ、後翅うしろはねには幅廣い黒色こくしよくの帯を具へて居り、その内側うちがわは青色である。

體長三十九耗くらいから四十五耗くらい位あり、北海道、本州四國、九州等しゅうなごに産する。

常に河原かはらに棲み、地上に止とまる時には體の色が附近の色に似にて居るので中々見附みつけからない。然し飛び出す時には美うつくしい後翅が現はれるので始はじめてバツタであることが解る。

57 ヒナバツタ (第十六圖版1)

學名 *Stauroderus bicolor* Charp.

ばつた科

小型鼠色こがねうさみいろのバツタである。前胸の兩側りやうがわに「く」の字形の黄白色紋と黒い縦條たてすぢとがある。夏なつから秋へかけて乾かいた畑かの路等みちなどに多く、雄はチーと鳴く。

體長十八耗くらい内外ないぐわいあり、日本全國にほんぜんこく、シベリア、ヨーロッパ、北アフリカ等に産する。

58 ヒチグロヒナバツタ (第十六圖版2)

學名 *Stauroderus fumatus* Shiraki

ばつた科

前種に似た小型のバツタである。體は暗褐色で、腹部は黄色、翅は暗褐色で幅廣く、後翅の脛節は紅色である。

體長十八耗内外、北海道、本州、四國、九州、朝鮮等に産し山地の道路等に多い。チーと鳴く。

59 イホバツタ (第十六圖版3)

學名 *Trypophida vemerata* D. H.

ばつた科

體は土色をした餘り美しくないバツタである。前胸は少し縊れ、表面に數個の疣がある。後翅は幾分

青味を帯びて透明である。

體長三十耗内外、日本内地に普通である。夏日道路等に多い。

60 アカハネバツタ (第四圖版3)

學名 *Celes akitana* Shiraki

ばつた科

體は暗褐色、前翅は暗色でこれに多數の黒褐紋を具へて居る。後翅は美しい紅色で、外側のみ暗褐色である。後肢の脛節は基部黒褐色、少しく黄白色の部分があり、他の大部分は青色である。

體長三十七耗から四十耗位あり、本州、朝鮮北部等から知られて居るが、高尾山には八月末から十月にかけて普通である。

61 ミヤマフキバツタ (第十六圖版6)

學名 *Podisma mikado* Boliv.

ばつた科

體は綠色、翅は非常に短かい。前胸の兩側に太い黒紋を具へ、前翅は圓形で褐色、後肢の脛節は青色である。

體長二十二耗(雄)―三十三耗(雌)あり、北海道、本

州等に産する。山地に普通でフキ等を食害する。

62 ヒシバツタ (第十二圖版8)

學名 *Tettix japonicus* D. H.

ひしばつた科

畑、草原等に多い菱形の小さいバツタである。背面の菱形の部分は前胸背が延びて體を覆ふたもので大體鼠色のものが多いが、背面の斑紋には變化が甚だ多い。前翅は退化して小さな鱗型をして残つて居る。後翅はあるが飛ぶことは出来ない。

體長九耗内外、全國に産し、農作物を害する。

63 トゲヒシバツタ (第九圖版1)

學名 *Acantholobus japonicus* D. H.

ひしばつた科

前種に似て居るが大形で、前胸背は一層長く後方に延び、後端は尖つて居る。背面は灰黄色或は鼠色で斑紋は無い。胸の兩側に一本宛の棘がある。

體長十五粒内外、本州中部から臺灣北部へかけて産し、水田の附近或は濕地に多い。前翅は小さいが後翅は大きく、よく飛翔する。

64 ハネナガヒシバツタ (第一二圖版3)

學名 *Paratettix histricus* Stål.

ひしばつた科

體は細長く、小型である。背面の色は黄褐色又は灰褐色で、これに黒又は褐色の斑紋を持つたものもある。後翅は大きく、よく飛翔する。前胸の兩側に棘が無いので前種と區別することが出来る。

體長十二粒内外、本州中部以南より臺灣、支那、

印度北部オーストラリア等に亘つて産する。畑、草原等に多い。

65 カマキリ (第一圖版3)

學名 *Paratenodera sinensis* Stall.

かまきり科

體は黄綠色、時として黄褐色のものもある。夏の終り頃から現はれる普通種で、樹上或は種々な植物に棲み、他の昆蟲を鎌の様な前肢で捉へて食物とする。此の種類の卵塊は細長い。

體長七十五耗内外、北海道、本州、四國、九州、琉球等に産する。

66 オホカマキリ (第一八圖版2)

學名 *Paratenodera angustipennis* Sauss.

かまきり科

カマキリに似て大形で、體の色も同様に緑或は黄褐色である。前胸背の前方はカマキリよりも幅が広い。卵塊(第一八圖版3)は圓形で大きい。

前種同様叢に多く、他の昆蟲を食とする。體長八十五耗内外、北海道、本州、四國、九州、琉球、臺灣等に産する。

カマキリ類の腹の中から出て来るハリガネムシに就いて一寸説明して置く。ハリガネムシは人間の蝨蟲等と近い蠕形動物であつて、元來水中に棲むもの

であるが、此の蟲の幼蟲が水棲昆蟲の幼蟲に寄生し  
 その幼蟲が更に他の昆蟲に食はれてハリガネムシの  
 幼蟲は食つた昆蟲の腹に入つて成長するのであるが  
 此の場合運悪くカマキリが食へば、直ちにカマキリ  
 の腹中で大きくなるのである。カマキリは直接水棲  
 昆蟲を捕へて食ふことは無いと云つてもいゝから、  
 ハリガネムシがカマキリに移る迄には何回か他の昆  
 蟲に食はれて来て居るものと見て差問へない。かま  
 きりは常に他の生きた昆蟲を捕つて食ふので、ハリ  
 ガネムシに取り附かれるのであるが、ハリガネムシ

は相當大きくなればカマキリの腹を出て水中に入り  
 一層育つのである。  
 ハリガネムシに寄生されたかまきりは遂に卵を産  
 むことができなくなつてしまふ。

67 ウスバカマキリ (第一八圖版1)

學名 *Mantis religiosa* Linn.

かまきり科

カマキリよりも小さい。體は綠色、雄の前翅は前  
 縁を除き、殆ど透明であるが、雌は不透明である。  
 後翅は兩方共透明で、斑紋は全く無い。



體長六十耗内外、本州、九州、臺灣、ヨーロッパ等に産するが餘り多くない。秋現はれる。

68 コカマキリ (第一四圖版7)

學名 *Stalida maculata* Thunb.

かまきり科

小型のカマキリである。體は黄褐色、或は暗褐色稀に黄綠色のものもある。形はウスバカマキリに似て居るが、前肢の基節の裏面に光澤ある黒藍色の紋があり、前翅は雌雄共に不透明、後翅には黒藍色の斑紋があるので區別することができる。

體長四十五耗内外、本州、四國、九州、臺灣等に産し、秋期最も普通である。

69 ハラビロカマキリ (第一圖版1)

學名 *Hierodula patrifera* Serv.

かまきり科

體は短かくて幅が廣く、綠色又は暗褐色、雌は一層幅が廣い。雄の前翅は前縁を除いた他の部分は半透明、雌では一樣に不透明であるが、兩方共前縁近くに白色の楕圓紋がある。

體長六十耗内外、本州、四國、九州、臺灣等に産

する。仔蟲は腹部を背中の方へ折り曲げて歩くものである。

70 ヒメカマキリ (第一圖版4)

學名 *Acromantis japonica* Westw.

かまきり科

小型の可愛らしいカマキリであるが、關西地方に多く、其の他では未だ捕つたことがない。體は枯葉色、前翅の前縁は綠色、後翅は黄褐色で半透明、末端の方は幾分色が濃い。

體長三十耗内外、秋期現はれる。

71 ヒナカマキリ (第一八圖版4)

學名 *Iridopteryx maculata* Shiraki

かまきり科

最も小型のカマキリである。體は暗灰色で暗色の斑紋を具へ、翅は退化して居て非常に小さく、雌はハラビロカマキリのように腹部の幅が広い。

體長十四耗内外で、本州、臺灣等に産する。此の種類は他のカマキリ類と異り朽木や瓦等の下に棲んで居る。私は東京市内で時々獲たことがある。

72 ナナフシ (一七圖版1)

學名 *Phaortes elongatus* Thunb.

ななふし科

體は細長く、一見木の枝の様である。肢は細長く非常に折れ易い。體は緑色又は褐色で、翅は無い。體長十糎内外、本州、四國、九州等の山地に産する。

73 トゲナナフシ (第二十圖版1)

學名 *Menemus japonicus* D. H.

ななふし科

體は太く、暗褐色で澤山の棘が生えて居る。觸角

は細く、體長の半分よりも少しく短かい。

體長六十五糎内外、本州、四國、九州等に産するが少い種類である。

74 トビナナフシ (第一圖版2)

學名 *Micadina phluetaenoides* Rehn.

ななふし科

體は緑色、觸角は長く體の半分以上ある。前翅は短かくて鱗形、後翅は大形で扇形をして居り、擴げると前縁は緑色、他の部分は紅色である。

體長四十五糎内外、秋期櫟林に普通である。本州、

四國・九州、琉球等に産する。雄は體が細く、翅が大きいが中々見つからない。

75 ゴキブリ (第一九圖版と)

學名 *Blatta concinna* D. H.

ゴキブリ科

體は黒褐色で長楕圓型、觸角は體よりも長い。前胸背の中央には凹んだ部分がある。雄の前翅は腹端を越えて居るが雌のものは短かい。

體長三十耗内外、本州、四國、九州、朝鮮、支那等に産し、臺所に多い。アブラムシとも云ふ。

76 クロゴキブリ (第一九圖版5)

學名 *Periplaneta picea* Steph.

ゴキブリ科

ゴキブリに似て幅が廣く、色は幾分黒味が強い。前胸背は稍圓形である。

體長三十五耗内外あり、本州、九州等に産する。

77 チヤバネゴキブリ (第一九圖版1)

學名 *Phyllodromia germanica* Steph.

ゴキブリ科

小型、光澤のある黄褐色で、前胸背の中央に二本の太い黒褐色の縦紋がある。前翅は長い。臺所に多く